JAPAN 2015

23rd WORLD SCOUT JAMBOREE SCOUT MONDIAL

第23回 世界スカウトジャンボリー

2015年7月28日~8月9日

山口市阿知須・きらら浜他

岡山連盟｜派遣隊とホームステイの記録

日本ボーイスカウト岡山連盟

写真提供：ボーイスカウト日本連盟

23rd WORLD SCOUT JAMBOREE SCOUT MONDIAL JAPAN 2015

和

第23回 世界スカウトジャンボリー

会期: ２０１５年7月２８日(火) ～8月8日(土)
会場: 山口市阿知須･きらら浜他
参加者: 世界１５５の国と地域から約3万4千人
参加対象者: 世界各国の１４歳から１７歳のスカウトと引率指導者
１８歳以上のスタッフとして参加した指導者

ボーイスカウト岡山連盟
派遣隊とホームステイの記録

第23回世界ジャンボリー岡山編成 指導者・スカウト編成表

ウエスタンハブ KUJU(久住)サブキャンプ

	9分団	第2隊		
1	隊長	森本 英利	M	西大寺5団
2	副長	長町 美波	F	西大寺5団
3	副長	髙橋 道範	M	岡山　4団
4	副長(前)	砂場 一昭	M	西大寺1団
	副長(後)	西本 洋一	M	津山　1団
1	VS	高橋 佑太	M	岡山　4団
2	BS	甲斐 保稀	F	岡山　4団
3	BS	小野 天	F	岡山　4団
4	VS	溝部 隆宏	M	岡山 17団
5	BS	合田 涼介	M	岡山 17団
6	BS	塩澤 雅也	M	岡山 17団
7	BS	佐藤 彗斗	M	岡山 17団
8	VS	枝松 拓斗	M	岡山 17団
9	VS	徳田 豊都希	M	岡山 26団
10	BS	徳田 理織満	M	岡山 26団
11	BS	小枝 裕太	M	岡山 26団
12	BS	山崎　和	M	岡山 26団
13	BS	高橋 歩夢	M	西大寺1団
14	BS	児島 恵万	M	西大寺1団
15	BS	佐藤　匠	M	西大寺1団
16	BS	日下 有騎	M	西大寺1団
17	VS	尾坂 詩苑	F	西大寺5団
18	VS	山本 嵩記	M	西大寺5団
19	BS	藤原 由衣	F	西大寺5団
20	BS	石原 由羽奈	F	西大寺5団
21	BS	高原 宏弥	M	西大寺5団
22	BS	長島 麻日奈	F	西大寺5団
23	BS	清水 秋菜	F	西大寺5団
24	BS	尾坂 悠乃	F	西大寺5団
25	BS	佐藤 ほのか	F	西大寺5団
26	BS	長町 優花	F	西大寺5団
27	VS	長瀧 裕聖	M	津山　1団
28	BS	福島 翔吾	M	津山　1団
29	BS	木下 富博	M	津山　1団
30	BS	竹本 ふうた	M	津山　1団
31	BS	黒瀬 修吾	M	津山　1団
32	BS	北林 清人	M	浅口　1団
33	島根連盟BS	西田 光希	M	出雲　1団
34	島根連盟BS	今田 優佑	M	出雲　1団

	9分団	第3隊		
1	隊長	岡本 明広	M	浅口　3団
2	副長	岡谷 悦子	F	倉敷14団
3	副長	森定 信吉	M	総社　3団
4	副長補	渡辺 一史	M	倉敷16団
1	VS	豊福 隼也	M	都窪　2団
2	VS	太田 理津紀	M	都窪　2団
3	VS	末友 美帆	F	都窪　2団
4	VS	長塚 文香	F	都窪　2団
5	VS	篠原 弘幸	M	都窪　2団
6	VS	森　勇太	M	都窪　2団
7	VS	尾崎 天志郎	M	都窪　2団
8	BS	松岡 勇和	M	都窪　2団
9	BS	渡辺 康太	M	都窪　2団
10	BS	渡辺 隆文	M	都窪　2団
11	BS	田中 星也	M	都窪　2団
12	VS	佐々木 輝	M	倉敷14団
13	VS	加藤 良彦	M	倉敷14団
14	VS	岡谷 実冶子	F	倉敷14団
15	VS	加藤 伸彦	M	倉敷14団
16	BS	延藤 達明	M	倉敷14団
17	VS	三村 僚	M	倉敷16団
18	VS	宇喜多 暁洋	M	倉敷16団
19	VS	三浦 昴太	M	倉敷16団
20	VS	倉本 朋英	M	総社　3団
21	BS	西中 大翔	M	総社　3団
22	VS	松本 佳奈	F	玉野　1団
23	BS	宮崎 傑	M	玉野　1団
24	BS	桑原 大誠	M	玉野　1団
25	BS	藤原 侑平	M	玉野　1団
26	BS	原田 晃誠	M	玉島　5団
27	BS	石村 アリーネ愛美	F	玉島　5団
28	BS	安福 崚央	M	浅口　1団
29	VS	安福 翔輝	M	浅口　1団
30	BS	大武 優匡	M	浅口　1団
31	BS	川上 眞人	M	浅口　1団
32	BS	平井 大地	M	高梁　1団
33	BS	三宅 志佳	F	高梁　1団
34	BS	森元 南帆	F	高梁　1団
35	BS	川上 弘雅	M	高梁　1団

日本派遣団本部　脇本富治(岡山17)

IST奉仕者

剣持 秀子、長田遥(岡山4)、溝部 光優、菅野 浩司、大本 拓実(岡山17)
幡山 寛念(赤磐2)、横山卓生、三浦強、トーマス・ギャビン(西大寺1)
建部 成裕、宮本稚子(西大寺5)、木多 直登(津山1)、大野吉造(倉敷14)、
前原 房江(総社3)

JDT等奉仕者

岡本 耕治(岡山4)
星山 正一(西大寺5)
坪井 喜久太(都窪2)
渡辺 真道(倉敷14)
西山 勝正(玉野1)

広島会場奉仕者

植中 和彦、剱持 智(岡山4)
天野 勲、山崎 久美子(岡山26)
二宮 雄一(西大寺1)
石原 克之(西大寺5)
東條 弘明(浅口3)、赤木 啓子(高梁1)

9分団第2隊

派遣隊の記録

コブラ班

	氏　名	学年	役務	所属団
1	長瀧　裕聖	高2	班長	津山第1団
2	福島　翔吾	中3		津山第1団
3	木下　富博	中2		津山第1団
4	竹本　ふうた	中2		津山第1団
5	黒瀬　修吾	中2		津山第1団
6	高橋　歩夢	中3	次長	西大寺第1団
7	児島　恵万	中2		西大寺第1団
8	日下　有騎	中2		西大寺第1団
9	佐藤　匠	中2		西大寺第1団
10	砂場　一昭		副長 (前半)	西大寺第1団
10	西本　洋一		副長 (後半)	津山第1団

シロクマ班

	氏　名	学年	役務	所属団
1	尾坂　詩苑	高2	班長	西大寺第5団
2	藤原　由衣	中3	次長	西大寺第5団
3	長島　麻日奈	中3		西大寺第5団
4	石原　由羽奈	中2		西大寺第5団
5	徳田　豊都希	高1		岡山第26団
6	小枝　裕太	中3		岡山第26団
7	北林　清人	中3		浅口第1団
8	高原　宏弥	中2		西大寺第5団
9	森本　英利		隊長	西大寺第5団

オオカミ班

	氏　名	学年	役務	所属団
1	溝部　隆宏	高2	班長	岡山第17団
2	枝松　拓斗	高2	次長	岡山第17団
3	合田　涼介	中3		岡山第17団
4	塩澤　雅也	中2		岡山第17団
5	佐藤　彗斗	中2		岡山第17団
6	佐藤　ほのか	中3		西大寺第5団
7	長町　優花	中3		西大寺第5団
8	尾坂　悠乃	中2		西大寺第5団
9	清水　秋菜	中2		西大寺第5団
10	長町　美波		副長	西大寺第5団

コマイヌ班

	氏　名	学年	役務	所属団
1	高橋　佑太	高2	班長・スカウト通信員	岡山第4団
2	甲斐　保稀	中3		岡山第4団
3	小野　天	中3		岡山第4団
4	山本　嵩記	高1	上班	西大寺第5団
5	徳田　理織満	中2		岡山第26団
6	山崎　和	中2		岡山第26団
7	西田　光希	中3	次長	出雲第1団
8	今田　優佑	中2		出雲第1団
9	髙橋　道範		副長	岡山第4団

0902隊　大会参加日程概略（準備日程も含む）

1．参加スカウト・保護者説明会
①日時　3月22日（日）13：30～16：00
②場所　西大寺キリスト教会　教育館2階ホール
③参加者　参加スカウト30人・指導者4人、保護者23人、所属団12人（合計69人）

2．第1回事前訓練キャンプ
①日時　5月3日（日）12：00～4日（月）13：30
②場所　国立吉備青少年自然の家キャンプ場（吉備中央町吉川）
③参加者　参加スカウト32人・指導者5人

3．第2回事前訓練キャンプ
①日時　6月13日（土）10：00～14日（日）15：00
②場所　高間キャンプ場（総社市種井）
③参加者　参加スカウト29人・指導者5人

4．本大会日程
7/27（月）出発（津山5:30→西大寺7:00→桑野ふれあいセンター7:30→大元駅前8:10→道口SA9:00→会場着14:00）テントサイト設営
7/28（火）後発日本隊・外国隊入場（外国隊サイト設営作業）
7/29（水）開会式
7/30（木）午前（フリーアクティビティ）、午後（地球開発村）：場内
7/31（金）全日（コミュニティ）：場外
8/1（土）全日（広島ピースプログラム）：場外
8/2（日）信仰プログラム・フードフェスタ・アリーナショー：場内
8/3（月）全日（ウオーター：水泳・ビーチスポーツ等）：場外
8/4（火）午前（カルチャー）、午後（フリーアクティビティ）：場内
8/5（水）全日（サイエンス）：場内
8/6（木）全日（ネイチャー）：場外
8/7（金）午前（フリーアクティビティ）、午後（サイト撤収）、閉会式
8/8（土）午前（隊装備等積み込み）10時出発、午後（帰岡：4～6時）

派遣隊員の感想文

****

一生の思い出の１３日間

コマイヌ班　今田　優佑（出雲第1団）

僕は０９０２隊として岡山隊に混じり、２３ＷＳＪに参加しました。普段、出雲第1団として活動している僕は仲良くできるか、ＷＳＪを楽しめるかとても心配でした。そんな中、参加した事前キャンプ。隊長は優しく、班のメンバーもいい人ばかりでした。とても心強かったです。

7月27日。僕は２３ＷＳＪに出発しました。班の中での協力も増え、ますます絆が深まっていきました。班員だけでなく、ほかの班の人とも話し、笑い合うことができました。僕は０９０２隊で良かった、コマイヌ班で良かった、そしてみんなに会えてよかったと思います。普段も岡山隊で活動したいぐらいです。

今回のジャンボリーは、雨が一度も降らず、過酷でしたがそれを忘れさせるぐらい充実した１３日間でした。

また縁があったら会いましょう！ありがとうございました。

****

VIVA! 23WSJ!!

コブラ班　日下有騎（西大寺第1団）

楽しみにしていた世界ジャンボリー。

開会式、アリーナショーなど本当に楽しく感動の連続でした。

期間中は何度か外国のスカウト達との交流の時間はありましたが、中でも一番印象に残ったことはUNOをしたことです。僕達が自分たちのキャンプサイトでUNOをしていると横のサイトのスペインのスカウト２人が突然参加してきました。UNOはとても盛り上がり楽しかったです（僕の内心…「「「超Exciting!!!!」」」）。彼らはとても気さくで陽気な性格だと思いました。コミュニケーションは英語が全てではなく、感情の共有も大切だと感じました。

今から思えば、もっと自分から積極的に外国人スカウトと交流すればよかったと思います。今回は反省する点がいくつかあり、僕は未熟だと実感しています。今後のスカウト活動を通して今回の反省点を克服し、次に参加したときは自分から積極的に交流していきたいです。

最後に僕を２３ＷＳＪに参加させてくれた西大寺第1団と、家族、そして２３ＷＳＪを支えてくれたスタッフや隊長にも「ありがとうございました」と感謝の言葉を伝えたいです。

****

世界ジャンボリー に参加して

シロクマ班　北林清人（浅口第1団）

僕は、世界ジャンボリーに行って思った事が二つあります。

一つ目は交流です。僕のいたグループには、フランス、イギリス、アメリカの人達がいました。外国の人達はとても気さくでした。合っているのか合っていないのか分からない僕の英語でもちゃんと聞いてくれて理解してくれたことが、とても嬉しかったです。

僕は、一昨年の日本ジャンボリーに行きましたが、その時は外国の人達との交流はあまり出来ませんでした。世界ジャンボリーでは、外国の人にたくさん話しかけられ、とてもびっくりしました。

二つ目は、食文化に触れた事です。僕の隊では、ちらし寿司を作りました。外国の人達が美味しいと言って、食べてくれたことがとても嬉しかったです。

他の隊が作った食べ物で、オムレツみたいな形の中にジャガイモが入ったものがあり、それがとても美味しかったです。

世界ジャンボリーに行って、交流や食文化に触れることが出来て、とても勉強になったし楽しかったです。

そして、なによりも、日本の文化の良さを再確認できたように思いました。

****

「ジャンボリー」

オオカミ班　溝部隆宏（岡山第17団）

今回のジャンボリーでは、苦労した点がたくさんありました。まず一つは、外国の方とのコミュニケーション、もう一つは、班長として班の指揮をとることです。これについては、自分の拙劣（せつれつ）な指示で班員に負担をかけてしまったように思います。そして、もっとも大変だったのは、会場の暑さです。日中は暑さで頭がやられるかと思うほどで、日が落ちるまで本調子で活動ができませんでした。

ＷＳＪでは、苦労することもありましたが、勿論楽しかったこともあります。外国の方と交流したり、アリーナでは予想以上の規模に驚かされました。また、とても快活な班員達に恵まれ、とても楽しく班行動を送ることができました。

今回のジャンボリーでは、心も体もとても疲れましたが、通常の生活では味わえない、活きた時間を体験できたと思います。

****

「この時の甲斐の心境を20字以内で答えよ」

コマイヌ班　甲斐保稀（岡山第4団）

ジャンボリーが終わってから数日が経ち、私の岡山での止まった時間がようやく動き始めました。

私は岡山に帰っていろんな人に「肌焼けたね」とか、「たくましいね」とか、「英語話せたの？」とばかり聞かれましたが、一番多かったのは、「宿題は大丈夫？」でした。当然、大丈夫ではありません。

実は、私はジャンボリーのことをあまり覚えていません。そのことで、私は自分の脳が心配になり、友達が「楽しすぎたことは忘れてしまうのよ。」と言っていたのを思い出しました。そういうことなのです。覚えてなさ過ぎて、私はこの文章を書くのに数時間かかりました。宿題がま

派遣隊員の感想文

だ終わっていないのに。明後日はテストだというのに。でもどうしてもこの作文が書きたくなったのは、なぜでしょうか。

****

「和 a Spirit of Unity」

オオカミ班　佐藤ほのか（西大寺第５団）

私は今回、２３ＷＳＪに参加してたくさんのことを学びました。そして、多くのことを得ることができました。

外国のスカウトの人たちと英語でしゃべることが多く、片言の英語だったけど、話が通じたりした時は、とても嬉しかったです。また、日本のスカウトにたくさん友達をつくることができてよかったです。

外国のスカウトは、日本のスカウトの何倍もノリがいいので、親しみやすかったけど、夜中、ギターを弾いたり、歌ったり、踊ったりしていて、全く眠れませんでした。

岡山1隊の人たちとも楽しく過ごすことができて良かったです。そして、その倍、班の人たちと仲良くなれて本当に楽しかったです。個性豊かな人たちと関わることができ幸せでした。

はじめは、どうなるか分からなかった２３ＷＳＪだったけど、たくさんの思い出ができたので、参加してよかったです。

****

「２３ＷＳＪ」

シロクマ班　藤原由衣（西大寺第５団）

今回、２３ＷＳＪにこのメンバーで、０９０２隊で行けて良かったです。

最初集まった時に、知らない人ばかりで不安でした。でも、訓練キャンプをする毎に友達も増えて、ジャンボリーが待ちきれなくなりました。

きらら浜に着いて、最初は殺風景だった会場もだんだんとテントで埋め尽くされていき、ワクワクしていました。外国の人と交流するのはもちろん楽しかったです。でも、２週間いっしょに過ごしたみんなとしゃべることも楽しかったです。罰ゲームジュースをしたり、サイトの外に出て個人で交流したり、写真撮ったり、ニックネームで呼び合ったり。こんな楽しいジャンボリー、帰りたくなかったです。宿題がなかったら、夏休みずっとジャンボリーでよかったです。段々と解体されていくテント、ペグやロープを探すのも、雑魚寝もおもしろかったです。

家に帰って、交換品や写真を見ていると、「とても充実していたんだな」と改めて感じました。２週間っていう短い期間、仲良くしてくれてありがとう！とっても楽しかった。

次のキャンボリー、１７ＮＪ、２４ＷＳＪでまた会えるといいね。

****

２３ＷＳＪ感想文

コマイヌ班　徳田理織満（岡山第２６団）

僕は、第２３回世界スカウトジャンボリーに行くまでは、世界の人々がちょっと集まる長いキャンプだと思っていたけど、全然違って外国人の人数も全体の７０％～８０％もいて、ほとんどが外国人でびっくりしました。

僕は、英語が話せなかったけど、外国人の多くの人とは、ジェスチャーとテンションで通じました。

僕は、黒人をテレビやインターネットでしか見たことがなかったので、生で黒人を見たときは驚きました。ちょっと失礼かも知れませんが、彼らは、夜になると体が全然見えなくて、服だけが浮いているように見えました。

アリーナショーもすごく、ショコタンやEXILEが来たことにはすごく驚いたし、安部首相や皇太子殿下が、わざわざ、２～３年に1回来てくれるのもすごいと思いました。

最後に、世界スカウトジャンボリーは、とてもおもしろかったです。

派遣隊員の感想文

****

第２３回世界スカウトジャンボリーの感想

シロクマ班　徳田豊都希（岡山第２６団）

私は、この世界ジャンボリーをとても楽しみにしていました。以前に開催された日本ジャンボリーでは、突然の豪雨によりサイト内が荒らされてしまったので、今回の世界ジャンボリーでも強い雨が降らないか心配でしたが、雨はほとんど降らなかったので良かったです。その代わりに、暑すぎて熱中症にかかってしまう人が多かったので、大変でした。

大会の開会式は盛大に行われ、多くの大会参加者が集い、盛り上がりました。私もとても楽しかったです。大会参加中は、様々なプログラムが用意されていて、とても魅力的なものばかりでした。

アリーナショーでは、多くの有名人が来てくださって、盛大に盛り上がりました。長期に渡るキャンプの中で、多くの仲間を得ることができたことに感謝しています。

****

僕にとっての世界ジャンボリー

コマイヌ班　山崎和（岡山２６団）

今回、僕の行ったこの第２３回世界ジャンボリーは、日本での開催は４０数年ぶりである。僕はボーイスカウトに入ったころから、ずっとこの大会の参加を目標にしてきた。なぜなら普段できない世界のスカウトと共にすごせる大規模なキャンプだからだ。

１３日間のキャンプでは、色々な事を学んだ。特に僕にとって大きかったのは、沢山の人々との出会いで自分の考えが大きく変わったことだ。具体的に言うと、沢山の人と協力しあう事で、物事に取り組むことが楽しくなるという事が体験できた。また協力し合うためのコミュニケーションの大切さも実感できたからだ。

特に思い出に残ったのは、アリーナショーである。８月２日に行われたアリーナショーでは「中川翔子」、「安田レイ」、「安部晋三首相」、「皇太子殿下」、「野口宇宙飛行士」など、沢山の有名人が参加した。中でも印象に残ったのは安田レイだった。アリーナショー自体初めて見たし、大勢の仲間と一緒に見ることでもの凄くテンションが上がった。

僕にとってボーイスカウトは、普段の生活とは異なる活動である。しかし、人と助け合うこと、人を思いやることは日常生活でも大切な事だ。これからもボーイスカウト活動を続け、次の日本ジャンボリーにも是非参加したい。叶うなら、２０１９年の世界ジャンボリーにも参加し、沢山の仲間と共に人と協力しあう事について考えていきたい。

最後に僕の１級進級の為、指導にあたって下さった岡山第２６団天野前隊長、山崎隊長、波多野副長、ありがとうございました。ジャンボリーに一緒に行った０９０２隊の皆さん、ありがとうございました！

****

世界スカウトジャンボリーに参加して

コブラ班　高橋歩夢（西大寺第１団）

僕は、１３日間のキャンプを終え、夏休みの半分を山口で過ごし、外国人ともたくさん交流ができ、いい思い出ができました。

僕は、世界ジャンボリーで二つ学んだことがあります。一つ目は、外国人の前でテンションを上げることです。僕は、普段からあまりハメを外して大騒ぎすることができず、アリーナショーも楽しむことができませんでした。しかし、楽しいときには、楽しいと表現した方が、みんなと一つになれることが分かりました。なかなかすぐにできるとは思いませんが、少しずつ自分を表現できるようになりたいです。

二つ目は、協力することです。一番協力の大切さを感じた時は、調理の時間です。１０人分の食事を作るためには、仲間と力を合わせ、手際よくしないと、次の行事へも影響が出ます。今回は、とても暑かったので、熱中症で倒れる人がいて、作る人が足りない場面もありました。一人ひとりが大切なメンバーで、一人でも抜けるとバランスが崩れることもこのキャンプを通してよく分かりました。

キャンプでは、家で過ごしているように、テレビがあったり、気の合う友達と遊んだりすることはできませんが、岡山県内のスカウトとも仲良くなれたり、挨拶を通し仲間意識を持つことができました。海外に少し興味がわいたのもこのキャンプでの成長の一つだと感じました。まだまだ、他人にまで気が回らないことが多いと思っていますが、スカウト活動を通して人に役立つ人間になれるよう日々努力をしていこうと思います。貴重な体験ができたこの夏休みは、僕の宝になりました。

****

「23WSJに参加して」

シロクマ班　小枝裕太（岡山２６団）

２年前の１６ＮＪとの違いに驚いた。外国人だらけ、さらにショップも大きかった。日本人が少ないとは聞いていたが、実際その中にいると、外国人が皆、背が高いことや髪や目の色がさまざまなことが新鮮で、まるで外国にいるようだった。

グッズ交換やサインをもらうために積極的に声をかけたが、知っている単語とジェスチャーでもわりと通じたので嬉しかった。

また、「班長」の責任感をすごいと思った。私も自団で班長だが、ＷＳＪは重さが違う。その責任感、目配り気配りを参考にして、これからの活動

派遣隊員の感想文

に活かしたいと思う。
　そして感謝。ＷＳＪが日本で、近県の山口で行われる年に、自分が参加できる年齢だったことに。資格も取得し、参加が許されたことに、「感謝」！

****

２３ＷＳＪを経験して

オオカミ班　合田涼介(岡山第17団)

　今回の２３ＷＳＪは、ボーイスカウトの活動だけでなく、人生の中でも大イベントだと思い、楽しみにしていました。もちろん不安などもありました。不安は色々ありましたが、それより期待や興奮で胸がいっぱいでした。
　参加している時はとても暑く、外国の人がたくさんいて、そこが日本ではないような錯覚に陥りました。外国の文化や風習等が体験できて、とても珍しく、参考にできるものばかりで退屈しませんでした。それに他のスカウトとも友達になれたりしてうれしかったです。
　２３ＷＳＪが終わり、家に帰ると家が便利すぎて落ち着きませんでした。携帯電話やゲーム機の使い方すら忘れていました。今まで自分がどれほど怠惰な生活に慣れていたかが分かりました。
　これからは良いところはより良く、悪いところは直して生きたいと思います。

****

「英語力？～ジャンボリーでの気づき～」

オオカミ班　塩澤雅也（岡山第17団）

　僕が世界ジャンボリーに行って感じたことは二つある。
　一つ目は、外国語（英語）を学ぶときは、実際使ってみたらどうなるかをイメージしながら学ぶということだ。理由は、僕は帰国子女（といっても非英語圏だが）なのだが、外国に住んでいた時よりも言葉が出てきにくかったからだ。なぜなら、しばらく英語を使っていなっかったので、頭が日本語モードになっていたからだ。つまり、実際に話しかけられることがなかったので日本語モードになっていたから、実際に使うときのことを考えればいいのだ。
　二つ目は、スカウトの人数の多さだ。世界にはたくさんのスカウトがいるということは聞いていたが実際に見たことがなかったが、アリーナショーの時に集まったスカウトを見て驚いた。これでも一部ということを考えると驚きだ。
　今回の世界ジャンボリーでは、様々な発見があった。次は日本ジャンボリーだが、それにも参加してみたいと思う。

派遣隊員の感想文

****

世界スカウトジャンボリーを終えて

コマイヌ班　山本嵩記（西大寺第５団）

ジャンボリーの醍醐味は、何といっても異文化交流だろう。外国人との交流で、子供として共通なことに興味や面白さを見出し、喜怒哀楽を共有した。それは普段の学校の生活では味わうことのできない、いや、どんな他の大会でも経験することのできないものだった。

交流は相互理解に重きを置くべきである。どんなに、価値観、習慣が異なっていてもそれを全面的に否定してはならない。この大会の生活ではそれらのギャップが自分の中で問題となることが何度もあった。周知、日本人は形式やルール、約束をきちんと守る国民性であるといわれている。無論、日本には無く、他の国が持っている良い点もある。日本の考え方がすべて「良」では無いかもしれないが、外国人との交流を通して自分自身の価値観や物事の判断基準、そして、未来の日本のあるべき姿を高校生なりに思案することができたと思う。現代社会でいわれる、「いかにしてグローバル人材になるか」。結局はボーイスカウトで求められることも同じであろう。

最後に、ジャンボリーでは本当に多くのことを学んだ。大会のテーマにあるよう「一つの精神」として参加スカウトは大きく成長したと思う。それも、指導者の方、大会スタッフの方、そして両親の支援があってのことだ。すべての人に感謝したい。また、この大会で学んだことや感謝の気持ちを大切にし、今後の学業ともに日々の生活に励みたい。

****

23WSJに参加して

オオカミ班　長町優花（西大寺第５団）

今回の23WSJに参加して、私は今までにない良い体験をすることができました。出発前は、外国スカウトは体が大きく少し怖いとか、英会が苦手なので外国スカウトと仲良くできるのか不安でした。でも、行ってみると全く違い、文化や言語が違うのに、うまくコミュニケーションを取り合い楽しく過ごすことが出来ました。印象的な事は沢山ありました。最初に驚いたのは、セレモニーなどで日本のアイドルのステージが始まると、会場が盛り上がり、全体がひとつになることです。他には、スカウト同士の物々交換。英語以外の国のスカウトとも身振り手振りで交換できました。交流会では、アメリカとゲームで盛り上

派遣隊員の感想文

がり、とても楽しかったです。フードフェスタでは、他国の食べ物を色々ご馳走になりました。私の隊が出していた、「チラシそうめん」は外国スカウトに大好評でした。

楽しい毎日が過ぎる中、一番心に残った広島ピースプログラムがありました。私達は学校から研修に行ったり、テレビの情報で知っている広島の原爆。海外のスカウト達はの今回見学して初めて原爆の本当の酷さを知ったらしく、多くのスカウトが、悲しみ泣いていました。私達の世代で二度とこのような悲劇が起こらないようにしたいと強く思いました。みな同じ考えだと思います。

今回のキャンプで沢山の友達ができ、良い経験ができました。また、23WSJでできた友達、キャンプ後うちでホームステイしたスカウトの住んでいる国へも行ってみたいと思いました。今回の沢山の経験を活かし、将来何かの形で人の役に立てるようにがんばりたいと思います。

****

23WSJを終えて

０９０２隊　副長　長町美波（西大寺第５団）

今回のWSJは、今まで参加させて頂いたNJとは全く違うということで、当日を迎えるまで不安は尽きませんでした。参加隊メンバーが決まり、先ずは情報収集。ネット社会の今日、情報が溢れていました。それが正しいかどうかは別として…。日連からのブリテン以外にも、今まで他のWSJを経験された方々からの装備品、スカウト対応などのアドバイスもありました。その中でも一番考えさせられたのは、生活の安全面でした。治安の良い地で日々を過ごしている私達の防犯意識は低く、各自のテントに鍵をかける、トイレ、入浴時のキャンプサイトを出るときは、スカウトだけでは行かせないなど、普段の活動ではあり得ないことでした。隊指導者と相談を重ね、2回の訓練キャンプを行い、準備を進め出発日を迎えました。

現地に向かうバスの中、スカウト達は期待と不安からなのか、早朝だったからなのか、口数は少なかったです。到着し、受付けを済ませサイトに入場すると、そこはまだ野原でした。周囲にテントは無く、遠くまで見渡せました。30度を超える気温の中での設営、炊事は気力、体力を低下させるものでした。その日は疲れていたのか、早目に就寝し、翌日に備えました。キャンプ2日目、外国隊が続々と入場してきました。私達の先発隊は、外国隊をサイトへ案内し、設営を手伝うこと。日頃は学校でしか使わないであろう英語を使いながら手伝い、気付けば周りはテントで埋め尽くされていました。

開会式を経て、プログラム活動が始まると、雰囲気にのまれサイトから出ていけなかったスカウトもサイト外へ出て、外国隊のスカウトと交流するようになっていました。出発前の不安が嘘のように、そこにはいつもと変わらぬキャンプ生活がありました。世界ではテロや様々な不幸な出来事が頻発しているのに、ここには文化も言語も違う人々が協力し合い、同じ目的に向かう素晴しい空間がありました。「あと何日で帰れる？」と口にしていたスカウトも、楽しそうに活動し、笑い声がサイトに響いていました。ただ連日の猛暑、熱中症には最後まで悩まされました。水分補給の麦茶、スポーツドリンクを切らさないようつくり、スカウトの食欲、睡眠など体調管理に全力を注ぎました。毎日のプログラムを終え、帰る頃には、みな自信に満ちた表情へと変わっていました。大

きなトラブルもなく、全員無事に帰ることが出来ました。WSJ前より逞しく成長したスカウト達を保護者の元へお返しすることが出来、ホッとしました。

今回もスカウトの成長の場面を見守り、お手伝いさせていただけたことに感謝します。また、不安の多い中スカウトを送り出して下さった保護者や、支えて下さった各団関係者の方々にも感謝の気持ちでいっぱいです。スカウトが今回のキャンプから何かを感じ取り、今後のスカウト活動へと繋がる事を祈りつつ、微力ながらお手伝いを続けさせて頂ければ倖いです。

****

第23回世界スカウトジャンボリー（JAPAN2015）を振り返って

０９０２隊　隊長　森本英利（西大寺第５団）

２３ＷＳＪが終わって、もう５ヶ月が過ぎようとしています。遠い過去のようにも感じられますが、３月の事前説明会から始まり、５月と６月の訓練キャンプ、そして本番の１２泊１３日のジャンボリーの全日程をとおして、参加者は各々貴重な体験をし、０９０２隊としての「和」が培われたことは、鮮明な記憶として残っています。

５月の訓練キャンプでは、脇本岡山派遣団長や県連役員も数名来られて、派遣団の結団式を行いました。いよいよ、本番に向けて実質的準備に入ったとの実感を得ました。期間中にかなりの降雨があり、食堂フライが雨水の重みで倒れるなど困難さも覚えました。しかし、班や隊活動の動機付けとメンバー間の融和が図れました。また、西大寺第１団の高橋君のお母さんによる歌唱指導や児島君のお父さん(トマス・ギャビン)による外国語会話指導などもあり、本番に向けての機運が盛り上がりました。

６月の訓練キャンプは、標高550mの山上のキャンプ場で行いましたが、日中は30℃弱まで気温が上がり暑く感じました。キャンプ場までの道路事情が悪い中、多くの保護者や原隊指導者の方々の支援があり、実施できました。このキャンプでは、本番通りのキャンプサイトの設営、交流会等で踊る南中ソーランやウラジャの練習、サイトのゲートに掲げる横断幕の作成をすることができました。また、本番に向けての、隊や個人装備準備品の確認をするなど大変よい準備の機会となりました。

さて、いよいよ本大会期間となり、会場に入った７月２７日は、直前に台風が近くを通過した後だったので、吹き戻しの風が強く、テントサイト設営にも影響がありました。その後は、典型的な夏型の気圧配置となり、連日最高気温３５℃前後の猛暑が続き、夜明け前の束の間の涼しさを除き、大変暑いキャンプ日程となりました。

期間中は、熱中症や火傷虫による炎症などで休養や救護所での応急手当や治療などで活動に参加できないスカウトが幾人かでましたが、幸い大事には至らず、無事に全員が全日程を終え、８月８日には、岡山や島根に帰ることができました。これは、参加スカウトの協力や頑張り、隊指導者の多方面からの準備や配慮、大会を運営したＪＤＴやＩＳＴ、日本派遣団本部の多くのスタッフによる様々な働きによる賜物であると心から思います。

私個人も、岡山と島根の混成隊である０９０２隊長として長期間のプレッシャーを感じながら、無事に大会を終えることができ、「感謝」の気持ちで満たされています。ただ、８月６日の場外プログラム（ネイチャー）のハイクから一人で帰る途中で、暑さのため朦朧となり意識を失いかけ、自転車でコースを巡回中のスタッフの親切な掛け声で助けられたことがありましたが…。

最後に、２３ＷＳＪに参加したすべてのスカウトやリーダーの今後の健勝とそれぞれの場での活躍を願い祈って、筆を置きます。

弥栄！（２０１５年１２月、森本）

9分団第3隊

0903隊　事前訓練等

第1回事前訓練集会
　日時　4月4日（日）10：00～15：30
　場所　総社市　山手公民館

第2回事前訓練キャンプ
　日時　5月3日（日）～5日（火）
　場所　金光町　胎金寺野営場

第3回事前訓練集会
　日時　6月21日（土）10：00～15：00
　場所　金光公民館

第4回事前訓練集会
　日時　7月19日（土）10：00～15：00
　場所　金光公民館

第5回事後集会
　日時　8月22日（土）14：00～17：00
　場所　金光公民館

23WSJ Japan Contingent 0903
K-9　ID：JP110　Okayama Scout Council

第23回世界スカウトジャンボリー

日本派遣団 0903 隊

岡山連盟

倉敷14・16団　総社3団　玉島5団　玉野1団　浅口1・2・3団　高梁1団　都窪2団

Ogre(オニ)班

氏　名		所属団	学年	役務
VS　安福　翔輝	男	浅口第1団	高3	班長
VS　佐々木　輝	男	倉敷第14団	高2	次長
VS　末友　美帆	女	都窪第2団	高1	
VS　松本　佳奈	女	玉野第1団	高1	
BS　渡辺　隆文	男	都窪第2団	中3	
BS　原田　晃誠	男	玉島第5団	中2	
BS　延藤　達明	男	倉敷第14団	中2	
BS　川上　弘雅	男	高梁第1団	中2	
副長 渡辺　一史	男	倉敷第16団		

Salamander(サンショウウオ)班

	氏　名		所属団	学年	役務
VS	倉本　朋英	男	総社第3団	高2	班長
VS	宇喜多　暁洋	男	倉敷第16団	高2	次長
VS	森　勇太	男	都窪第2団	高1	次長
VS	豊福　隼也	男	都窪第2団	高2	
VS	加藤　伸彦	男	倉敷第14団	高1	
BS	桑原　大誠	男	玉野第1団	中3	
BS	渡辺　康太	男	都窪第2団	中2	
BS	川上　眞人	男	浅口第1団	中2	
BS	平井　大地	男	高梁第1団	中2	
副長	岡谷　悦子	女	倉敷第14団		

Snail(カタツムリ)班

	氏　名		所属団	学年	役務
VS	岡谷　実治子	女	倉敷第14団	高2	班長
VS	三浦　昴太	男	倉敷第16団	高1	次長
VS	太田　理津紀	男	都窪第2団	高1	
VS	篠原　弘幸	男	都窪第2団	高1	
BS	松岡　勇和	男	都窪第2団	中3	
BS	宮崎　傑	男	玉野第1団	中3	
BS	石村　愛美	女	玉島第5団	中2	
BS	大武　優匡	男	浅口第1団	中2	
BS	三宅　志佳	女	高梁第1団	中2	
副長	森定　信吉	男	総社第3団		

Shark(サメ)班

	氏　名		所属団	学年	役務
VS	加藤　良彦	男	倉敷第14団	高3	班長
VS	尾崎　天志郎	男	都窪第2団	高2	次長
VS	長塚　文香	女	都窪第2団	高2	
VS	三村　僚	男	倉敷第16団	高1	
BS	西中　大翔	男	総社第3団	中3	
BS	安福　崚央	男	浅口第1団	中3	
BS	田中　星也	男	都窪第2団	中2	
BS	藤原　侑平	男	玉野第1団	中2	
BS	森元　南帆	女	高梁第1団	中2	
隊長	岡本　明広	男	浅口第3団		

派遣隊員の感想文

総社第 3 団

★西中 大翔

今回のジャンボリーでじぶんは、色々なことを学びました。それは人の温かさです。何故かというと、僕が英語が話せなくて困っていると、近くにいた全然知らない人が通訳してくれたり、困っていると協力してくれたからです。

あと、国によって人の感覚って違うんだなと気づかされました。そのきっかけは、ごみを捨てる奉仕活動の時でした。すごく驚きました。本当にスカウトが捨てた物なのかと疑いました。なぜなら大きな袋いっぱいにパンなどの食料から、まだ使えるライトなどが出てきたからです。自分は、スカウトはこのようになるべきではないと思いました。自分は、スカウトは、おきてにあるように質素でなければならないと思いました。

このジャンボリーは、そんな世界を知れる小さな世界でした。自分は、スカウトのおきてをこれからも守っていきます。

★倉本 朋英

世界スカウトジャンボリーに参加したことにより、自分はかなり成長できたと思います。

今回のジャンボリーで自分がしたいことが、はっきり見えた気がします。また、自分がとても恵まれた環境の中で育てられてきたことも実感できました。ジャンボリーのおかげで何気なかった日常に感謝したくなります。今回の経験をいかして今後につなげたいです。

浅口第 1 団

★安福 翔輝

23WSJ が終わっても、東京、愛知、大阪、山口、長崎、台湾、香港など多くのスカウトと SNS、年賀状等のやり取りをする機会があります。この経験は将来必ず役に立ち、人脈があり私達 23WSJ に参加したスカウトの誇りです。行かせていただいた親、団、引率してくださった指導者、大会をスムーズに進行、支えてくださった IST などの関係者全ての方に感謝します。

派遣隊員の感想文

都窪第2団

★尾崎天志郎

23WSJ において僕が学べた事がたくさんあります。まず一番に感じたことは、言語や考え方のちがいです。僕は英会話が出来るほうでは無かったのですが、ジャンボリー会場で生活していくうちにかなり英会話に慣れてきて、身振り手振りですが外国スカウトと交流や記念品の交換などをすることが出来ました。

その中でも特に印象的なのがナイジェリアスカウトとの交流です。僕らのテントサイトとナイジェリアのテントサイトは隣で、毎日挨拶やゲームをしたりするほど仲が良くなりました。日本のけん玉や、剣道、縄跳び、なども一緒に楽しんだり、ナイジェリアスカウトが作った帽子やブレスレットも貰えました。他の国とも沢山交流しました。そこで、相手の国の文化や考え方を尊重し、自分の周りのことをもっと知る事や、自分の考えと感謝の気持ちをちゃんと伝えることで、これからの楽しい人生やスカウティングがおくれると思いました。

★豊福隼也

大会で印象に残った事は外国のスカウトがすごく年上に見えても、性格は自分達と変わらないということでした。他には外国の文化を体験する活動でアメリカの担当者の方に話してもらったスカウトの絆は大会が終わっても無くならないということです。大会が終わっても、外国のスカウトと連絡しているスカウトを見て、スカウトの絆は何処にいても繋がっていると実感しました。

★渡辺隆文

外国隊との交流の時、外国のスカウトは、フレンドリーにどんどん話しかけてきてくれました。私が英語が苦手だと知ると、ゆっくり言ってくれたり、言い方を変えて言ってくれたりと、英語が苦手でも、交流会を楽しめました。

★松岡勇和

今回の世界ジャンボリーは、2年前の日本ジャンボリーと違い外国にいる様な気分だった。毎日のプログラムは様々な国のスカウトと交流することができとてもいい経験になった。また、英語の大切さも改めて実感できた。

★田中星也

12泊のジャンボリーは毎日がとても暑かった。思いだすと苦しくなる。楽しいこともたくさんあった。世界中のスカウトと友達になれた。日本語を教えたら、中国語を教えてくれたり、皆が昔からの友達みたいだった。同じスカウトだから、国の違いは関係ないんだと思った。開会式と閉会式はすごかった。3万5千人がひとつになった。苦しい思い出も多いけど、やっぱりみんなに行ってほしい。

★末友美帆

23WSJ で印象に残っている事は色々な人との交流です。私は英語が得意ではありません。それでも、ボディーランゲージと頭の中にある数少ない英単語で外国人との交流を楽しむ事ができました！普段の生活の中では外国人と交流する事などないので、貴重な経験が出来て良かったと思います。また、外国人だけでなく、他県の人とも交流ができ、楽しかったです！

★ 太田理津紀

僕は、閉会式の最後にあった、花火が最も印象に残っています。あの花火を見た時に、ジャンボリーをやりきったんだという達成感と、もうジャンボリーが終わるんだという残念な気持ちが同時に湧き上がったからです。しかし、あの気持ちはジャンボリーでしか味わえないと思います。次のアメリカも参加したいです。

★森勇太

今回の世界スカウトジャンボリーに参加して、日本ジャンボリーでは体験できないほど世界のスカウトが沢山いて驚きました。行くまでは英語も全然しゃべることも出来ないし、きらら浜に到着してキャンプが最終日まで出来るのかと不安があったけど、ついて外国のスカウトと話をしてみると、全然できない英語で単語とジェスチャーだけでも会話ができとてもいい経験になりました！

★渡辺康太

ジャンボリーでは、交流会などが多く、その中にはリズミカルで楽しいダンスなどの、団でも出来そうな物もあり、交流会も工夫するとすごく楽しめるんだなと思いました。今回のジャンボリーは、僕の最高の思い出になりました。

派遣隊員の感想文

倉敷第 14 団

★岡谷 実治子

23WSJ 会場は 44 年ぶりの日本ということで岡山からも多くの参加スカウトが集まりました。ほとんどのスカウトは 16NJ を経験しており、技術面では安心感がありましたが、はじめての国境を越えた交流ということもあり、大会前半は満足のいくような交流ができませんでした。しかし、日程が過ぎ“世界ジャンボリー”という特別な環境で過ごしているうちに自分の心の殻を打ち破り、様々な人と文化交流をすることができました。

今回 23WSJ で私は、この一夜にして出来た世界の村に“誓いとおきて”の実践に励む仲間が集まり、一つの方向へ向けて歩みを進めていることを身をもって感じる事ができました。そしてこの経験を後輩達に伝えて、是非世界ジャンボリーに参加してもらいたいです。

派遣隊員の感想文

倉敷第 14 団

★延藤 達明

僕は、今回の世界ジャンボリーでの一番の思い出は、各国のスカウト達とそれぞれの国の個性ある品物をお互いに交換する交流会です。僕は、扇子や日本手ぬぐいを持って行きました。会場には、外国のスカウトばかりで、圧倒されました。参加する前は、言葉が通じなくても何とかなると思っていたけれど、自分から声をかける勇気が必要でした。そんな時、日本のスカウトと協力して、一生懸命、知っている英語の単語を使って乗り切り、イギリス、アメリカ、台湾、などの国のスカウト達と交換し、T シャツを手に入れることができました。

そして、ジャンボリーから帰って、事後研修があった時、その交換品を皆の前で、紹介する場がありました。その時、僕たち隊の指導者からこんな話を聞きました。

「隣のサイトの外国の指導者と最後にお互いの絆を確認し合った。交換できる物が何も残っていなかったから、ハグしてまた会うことを誓いあった。それは、どんな交換品にも変えがたい宝物となった。次は、君たちにも形のある交換だけでなく、このような形では表せない交流を望む」と、「ジャンボリーに参加できたことがゴールではない。ジャンボリーに参加して経験したことをこれからどう活かすかに価値がある」と言われました。

そのことを聞いて、僕は、自分の隊に帰って、参加していないスカウトの仲間に自分が体験したことを伝えようと思いました。そして、3 年後の日本ジャンボリーには、ジャンボリーを支える IST として参加したいと思います。

派遣隊員の感想文

玉野第1団

★松本 佳奈

私は世界ジャンボリーを経験してたくさんの事を学び、考えることができました。一つ目は世界各国の文化の違いです。世界ジャンボリーでは、たくさんの国と地域からたくさんの人が参加しました。私たちの隣のテントサイトでも言葉も文化も違う人たちが生活をしていました。普段、学校やテレビなどで知る海外の様子とは違って見え、普段ならとても遠く感じましたが、共に生活をしているうちに同じ地球に住む仲間と感じるようになりました。

特にその事が強く感じることができた出来事は台湾、韓国、香港、日本で行った合同交流会です。テレビの中では日韓関係など、あまり仲が良くないように感じることが多かったです。なので、はじめはこの交流会はどうなるのかとても不安でした。しかし、始まってみるとみんな明るくてとても楽しかったです。お互いの自己紹介、各国の伝統料理の紹介、ダンスの披露、写真撮影など言葉も、あまりわからないのに身振り手振りでお互いの事を尊重しあい、文化を認め合い、みんなで楽しむ事ができました。この事で国と国との関係は悪くても人間同士の触れ合いではとても楽しむ事が出来ることができると知りました。この経験はジャンボリーに参加しないと得られないものなので、これからに繋げていきたいです。

また、今回のジャンボリーではホームステイの子がきました。イギリスから二人、ルーシーとメイジーがきました。英語が出来るか不安だったけどジャンボリーで得た英語と身振り手振りの仕方で明るく過ごす事ができました。一緒にピアノ、歌、花火、料理、お話などいろいろできてとても楽しかったです。夕方にした女子会的なものは特に楽しかったです。お菓子とジュースでお互いの事をたくさん話ました。時には言葉が伝わらなくて困ることもありましたが最後には笑顔で見送る事ができてよかったです。少しの間だったけど別れる時には悲しくて涙が出そうになりました。とてもいい経験でした。今回のジャンボリーの経験で得たものはとても大きいと思います。行かせてくれた両親に感謝し、これからの人生にいかしていきます。

★桑原　大誠

僕は約2週間、ジャンボリーに行ってきました。世界ジャンボリーだけあって、外人が当たり前、日本人がめずらしいってほどでした。僕の班は、男子しかいなくて、ご飯がどうなることか思いましたがその心配の必要もなく、創作料理を作るほどご飯は美味しく出来あがりました。

ジャンボリーで一番心に残った事はメキシコのスカウトと仲良くなったことです。きっかけは、プログラムの帰りにバスでメキシコのスカウトが盛り上がっていたので、僕たちもそれに乗ったら気が合って、それからはほぼ毎日、メキシコのサイトに通いました。フードフェスティバルという各国のご飯を食べるというイベントもメキシコに行きました。でもやはり、辛かったです。そして、別のスカウトから、あの大きな帽子を交換しました。メキシコが、本当に好きになりました。

このジャンボリーで思った事は英語はそんなに出来なくても、ある程度伝わるということです。しかし伝えられると言ったものの、聞きとることがあまり出来ませんでした。外国のスカウトと自由に話せないのが、とても悔しかったです。今までで、初めて英語がしたいと思いました。なので、まず中学校の英語を頑張ろうと思います。ジャンボリーに行けて、本当によかったです。まさか、こんなに楽しいとは、思いませんでした。

★藤原　侑平

僕は、ワールドスカウトジャンボリーに参加出来て本当によかったと思いました。前回の日本ジャンボリーは、参加して苦しい思いがありました。その思いが強かったのか初めは23WSJにあまり行きたくありませんでした。しかし、何度も集会をして隊長から色々なお話を聞いて、「なんか楽しそう」と、だんだん思うようになってきました。

そして、当日世界のスカウトかが来ると聞いていたのでとても緊張しました。でも、日々キャンプする中で苦しさがなく楽しさばかりがありました。それの世界のスカウトと交流していき、他の国の文化や遊びになどを教えてもらって楽しくキャンプの日々が送れました。

こんな楽しいキャンプをするのは、初めてでまた、行ける機会があったら、ぜひ行きたいです。

★宮﨑　傑

私は平和や戦争、平等について考えました。アメリカの独立宣言にはこのような一文がある。

We hold these truths to be self evident,
that all men are created equal, that they are Endowed
by their Creator with certain unalienable Rights, that among
these are Life, Liberty and the pursuit of Happiness.

果たしてそれは事実なのか？ 世界中にはあらゆる人が存在します。生まれた時から富豪、貧しい人、頭のいい人、要領が悪い人、美人、ブス… 確かにある程度の努力によって築かれる部分もあるがそれも届かないのが現実である。これが私の思っていた最近の考えだ。しかし、この夏休みに自分の考えについて改めて考える機会がありました。それは23rd World Scout Jamboreeに参加したからです。

World Scout Jamboreeとは4年に一度の世界のどこかで行われるボーイスカウトの世界大会のことです。今年はなんと日本で開催され、約161ヶ国のスカウトが3万人集まって12泊13日のキャンプ生活をするものだ。その会場では当然公用語である英語が飛び交いコミュニケーションを図った。そしてあらゆることを学びました。例えば、おなじ食材でも国によって料理が代わってくることです。

そして私が一番この大会で感じた事は平和だということです。世界中の国は今日、領土問題や経済問題などの国同士の問題を抱えています。しかしこの大会では約161ヶ国の国が共同生活をしました。争いごとやもめごともなくみんなが楽しむことができました。つまり、このワールドスカウトジャンボリーは、この先世界中が目指していかなければならない理想の世界なのではないのかなと私は思いました。なぜ平和に暮らせたかというと、上下間の差がなくスカウト全員がお互いを理解していたからです。

そして今私がひとつの提案をします。それは世界中の人たちをブラザーであると思う事です。実際に自分達の兄弟が困っている時や悲しんでいる時は助けたり励ましたりすると思います。それを身内だけではなく色々な人に行うことが出来れば平和に繋がっていくと思います。

ボーイスカウト創立者である[ベーデン・パウエル]もこう言ってます。
《ボーイスカウトが世界中に広まれば世界平和に繋がる》
つまり、お互いを助け合うブラザーだと思うことが理想の世界を作る一番の近道となるでしょう。 23rd World Scout Jamboreeに参加出来て良かったです。次回も参加するぞ！！

指導者

役職	氏　名		団名	担当
隊長	岡本　明広	男	浅口第3団	総括
副長	森定　信吉	男	総社第3団	対外交渉等
副長	岡谷　悦子	女	倉敷第14団	安全＆フード
副長	渡辺　一史	男	倉敷第16団	プログラム

0903 隊 隊長

★岡本 明広

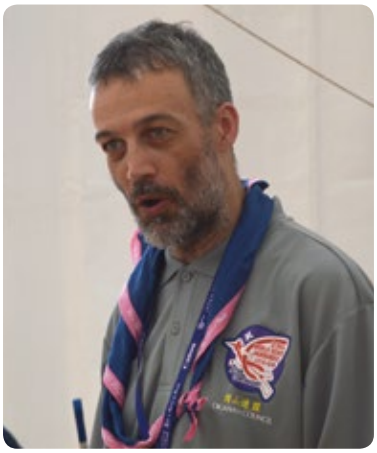
ジャンボリーでは「楽しくやろう」とスカウト達に呼びかけてきました。楽しさ、自由には責任が伴うことを良く理解し、規律を持って自ら考え行動してくれたことは我が隊の誇りです。

班長は班員の性格や行動を把握しようと努力し、もめごとがあっても投げ出さずに最後まで素晴らしい活動を続けることが出来ました。大半のスカウトが初めて国際的な経験を味わったのですが、国や宗派、個々の考えの違いを受入れる姿も見られると共に日本で生まれ育った事への感謝の気持ちも芽生え、根付いてきています。米一粒たりとも無駄にすることなく、毎回の食事は創意工夫にとんだものが登場しました。そのおかげでしょうか、体調を崩すスカウトが一人も出なかったことには驚きを隠せません。

今回 23WSJ に参加することができたスカウトが今後どのように歩んでいくかとても楽しみです。指導者としてスカウト運動に携わっていく者、英語の必要性を感じて学習に励む者、これまで以上に学校の部活動に勤しむ者。そんな将来の話しをスカウトから聞くことが出来、それぞれの道で今回の経験が大いに役立つことを願っています。

大会運営スタッフ IST・JDT

氏名		奉仕期間	所属団 奉仕部署
脇本　富治	7/25 ～ 8/9	岡山第 17 団	日本派遣団本部員 9 分団 スタッフ
岡本　耕治	7/23 ～ 8/11	岡山第 4 団	J -12-00 サイトマネージメント部　サブキャンプ班長
坪井　喜久太	7/25 ～ 8/9	都窪第 2 団	J -08-00 オフサイトプログラム部　クルーズ班長
渡辺　真道	7/23 ～ 8/10	倉敷第 14 団	J -13-00 トランスポート部　輸送管理班長
西山　勝正	7/23 ～ 8/12	玉野第 1 団	J -12-00 サイトマネジメント部　電気・燃料班長
星山　正一	7/23 ～ 8/10	西大寺第 5 団	J -13-00 トランスポート部　場内輸送班長
大野　吉造	7/23 ～ 8/10	倉敷第 14 団	J -13-00 トランスポート部　場内輸送次長
長田　遥	7/25 ～ 8/9	岡山第 4 団	J -05-00 マーケティング&コミュニケーション部
剣持　秀子	7/25 ～ 8/9	岡山第 4 団	J -14-02 調理師・衛生管理者
溝部　光優	7/25 ～ 8/9	岡山第 17 団	J -08-00 オフサイト（場外）プログラム部
横山　卓生	7/24 ～ 8/9	西大寺第 1 団	J -02-00 サブキャンプ部　ウエスタンハブスタッフ
三浦　強	7/24 ～ 8/9	西大寺第 1 団	J -02-00 サブキャンプ部　ＫＵＪＵＳＣマネージャー
建部　成裕	7/25 ～ 8/9	西大寺第 5 団	J -08-00 オフサイト（場外）プログラム部
大本　拓実	交替参加（後半）	岡山第 17 団	J -11-00 セーフティ部
菅野　浩司	交替参加（前半）	岡山第 17 団	J -13-00 輸送部
宮本　稚子	部分参加 E日程	西大寺第 5 団	J -07-00 オンサイト（場内）プログラム部
前原　房枝	7/25 ～ 8/9	総社第 3 団	J -14-02 調理師・衛生管理者
幡山　寛念	7/28 ～ 8/8	赤磐第 2 団	J -08-00 オフサイト（場外）プログラム部
木多　直登	7/23 ～ 8/11	津山第 1 団	J -02-00 サブキャンプ部　ＫＵＪＵサブキャンプ
トーマスギャビン	7/27 ～ 8/8	西大寺第 1 団	J -02-00 サブキャンプ部　ＫＵＪＵサブキャンプ
森本　英利	7/27 ～ 8/8	西大寺第 5 団	派遣隊 0902 隊隊長
長町　美波	7/27 ～ 8/8	西大寺第 5 団	派遣隊 0902 隊副長
高橋　道範	7/27 ～ 8/8	岡山第 4 団	派遣隊 0902 隊副長
岡本　明広	7/28 ～ 8/9	浅口第 3 団	派遣隊 0903 隊隊長
岡谷　悦子	7/28 ～ 8/9	倉敷第 14 団	派遣隊 0903 隊副長
森定　信吉	7/28 ～ 8/9	総社第 3 団	派遣隊 0903 隊副長
渡辺　一史	7/28 ～ 8/9	倉敷第 16 団	派遣隊 0903 隊副長
西本　洋一	後半 8/1 ～ 8/8	津山第 1 団	派遣隊 0902 隊副長
砂場　一昭	前半 7/27 ～ 8/1	西大寺第 1 団	派遣隊 0902 隊副長
前原　教志	8/9 ～ 8/12	総社第 3 団	サイトマネジメント部奉仕
広島ピースプログラム			
天野　勲	8/2 ～ 8/4	岡山第 26 団	総合案内班
山﨑　久美子	8/2 ～ 8/4	岡山第 26 団	総合案内班
赤木　啓子	8/2 ～ 8/4	高梁第 1 団	総合案内班
植中　和彦	7/30 ～ 8/5	岡山第 4 団	総合案内班
東條　弘明	8/1	浅口第 3 団	朗読管理班
剣持　智	7/31 ～ 8/1	岡山第 4 団	朗読管理班
石原　克之	7/30 ～ 8/1	西大寺第 5 団	朗読管理班
二宮　雄一	7/30 ～ 8/1	西大寺第 1 団	朗読管理班



IST 輸送管理班 渡辺 真道

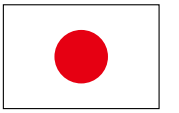
8／10 午前中に設置看板などを回収し、夕刻に帰倉しました。期間中は、総勢 400 人程度の若い各国のスカウターと輸送管理任務を遂行しました。おおむねプログラム実施中は毎日 300 台のバスの出入り入退場時には 32 千人のバス輸送に当たりました。人身事故なしで乗り切り安堵しております。写真は、朝一の 5 ～ 8 時クルーの誘導ポイント配置前の記念写真です。ほとんどが外国人で会話に苦労しました。さすが世界ジャンボリー、満喫しました。

ホームステイの記録 2015年8月8日～10日

Dobrodošli v Okayami!

ドブロドシュリ　ウ　オカヤミ

ようこそ、おかやまへ！



スロヴェニア

当初、スロヴェニアから500名の派遣団が23WSJに参加するということでした。国名を聞いてもどこにあるのか、どんな国なのかほとんど分からない。そこでスロヴェニア政府観光局から数種類のリーフレットを送って頂き、3月7日（土）にはスロヴェニア大使館から神足さんを招いて「スロヴェニアを知ろう」セミナーを開催したところ、当日は予想を上回る70名を超える参加者で会場があふれかえりました。ホームステイへの関心はいやが上にも高まりました。

最終的に、スロヴェニアからは70名（当初は360名との怪情報！）のスカウト達を受け入れることになり、第一地区でスロヴェニア、第二地区（倉敷、総社、玉野）、第三地区（浅口）でイギリスからの41名を受け入れることになりました。

スロヴェニア派遣団は、関西空港に到着後、京都、大阪、淡路、姫路を観光して、7月25日（土）に赤磐第2団のキャンプ場に到着。翌日から備前焼博物館、備前長船刀剣美術館、倉敷美観地区、後楽園等を観光し、28日にジャンボリー会場にバスで移動しました。その間は、テント持参で、すべてキャンプ生活でした！

8月8日のジャンボリー閉会後、午後の灼熱の中、2台のバスで岡山ドーム脇の駐車場に到着。歓迎のセレモニーもそこそこに、ホストファミリーに引き渡し、そこからは各家庭に移って、2泊3日の日本文化や食生活を体験しました。

8月10日の昼前に再び集合し、お別れとなりましたが、事故もなく無事終了することができ、ホストファミリーには深く感謝申し上げます。

今回のホームステイは大規模で、そうあることではなく、国際理解に繋がるものでした。言葉は片言でも、おもてなしの心は伝わったのではないでしょうか。最後に、このホームステイに関係した人々に御礼申し上げ、今後の国際交流が進むよう祈念申し上げます。

（ホームステイ担当　光畑俊行）

スロヴェニアスカウトの受入家庭　70名

岡山第 4 団

丹　智昭	Tilen Letner	Matic Pezdirc
甲斐　洋史	Pia Plevnik	Neza Kapelj
大林　由人	Ursa Primozic	Kristina susnik
田中　重信	Bruno Seravel	Ziga Vicic

岡山第 17 団

高木　由紀	Lucija Verdev	Zana Gornik
菅野　浩司	Tinkara Mazej	Ana Marija Hren
市川　望	Jure Rovan	Jasa Sonc
難波　桂子	Kaja Kunaver	Pija Sarko

岡山第 23 団

山本　俊美	Tinkara Kreft	Sara Vrabic
田岡　明子	Pia Gortan	Nastja Kojic
茶　祥子	Neza Cetina	Tjasa Jankovic

岡山第 26 団

湯原　芳樹	Leon Ratajc	Martin Gulin

西大寺第 1 団

高畑　早苗	Jure obreza	Jan Vidrih
砂場　一昭	Aljaz Grubar	Marko Sirse

西大寺第 5 団

辻　智恵	Katja Kac	Katja Kopusar
清水　尚子	Petja Muck	Zarja Dremel
尾坂　恵美	Mojca Knez	Petra Ana Jakin
長町　美波	Leon Stakne	Petra Bohanec
内元　里美	Stasa Pavlin	Izza Polavder
トンプソン 典子	Miha Rusnik	Jure Mazej
建部　玲子	Martin Podbregar	Maks Sladic
星山　英子	Inja Prebil	Minca Herlec
宮本　奈緒子	Nina Kapelj	Nusa Prebil

都窪第 2 団

川原　弘一	Ivo Pajer	Gasper Tratnik
田中　美代子	Maja Vrecar	Flori Kermauner
尾崎　由典	Eva Orsic	Sara Rovan
大森　公恵	Ursa Pelikon	Spela Adamic
高木　理子	Neza Kocnik	Eva Zukovec
松岡　佑有子	Ana Gosnjak	Anja Carl
坂井　俊之	Gaja Potocar	Brina Lencl
武田　ひとみ	Larisa Lesjak	Janja Terzan
中山　典孝	Oskar Kandare	Urban Znidarsic
須佐美 淳子	Timotej Grobovsek	Matej Plecnik
田口　智子	Mojca Cebul	Ula Dremel
田中　ひとみ	Jure Vrenko	Andrej Smit

都窪第２団　高木家

□受け入れたスカウト【スロヴェニア】
ネジャ（Neza Kocnik 14 歳女子）・エヴァ（Eva Zukovec 15 歳女子）
□ステイ中にしたこと
　一緒にお好み焼き、やきそばを作る。花火をする。スーパー、１００均、岡山イオンでの買い物。電車に乗る。
□感想
　まず、ホストファミリーという貴重な体験をさせていただいた事に大変感謝しています。ありがとうございました。最初子供達もスロヴェニアスカウトに緊張していましたが、食事や買い物などを一緒にする事でしだいに打ち解けていきました。ただ年上のお姉ちゃんという事もあり、親が簡単なスロヴェニア語と英語を教えてあげないと、なかなか自分から話しかけれませんでした。
　そういった意味では、同性のほうがよかったのかなと少し思いましたがそれでも最後の方には笑顔で少しですが会話ができていました。子供達にとって本当に貴重な体験となりました。

都窪第2団　坂井家

□受け入れたスカウト【スロヴェニア】
ガーヤ（Gaja Potocar 14歳女子）・ブリーナ（Brina Lencl 14歳女子）
□ステイ中にしたこと
【1日目】家族紹介等、けん玉披露、スーパーマーケットへ買い物、夕食（手巻き寿司）、ご近所さんと花火
【2日目】朝食（和定食orサンドウィッチや果物）ラウンドワンにて、ボーリング、プリクラ、太鼓の達人など、イオン岡山にて、昼食（天ざるそば）、買い物、おやつ（大判焼き）夕食（お好み焼き）、ウノやジェンガなどのゲームや歌など
【3日目】朝食（サンドウィッチや果物）、吉備小学校&学童保育見学

□感想
　スロベニアスカウトの二人は英語が堪能だったため全て英語で会話となりました。彼女たちには我々の拙い英語も一生懸命理解してくれようとする姿勢がみられ、コミュニケーション能力の高さを感じました。うちの子供たちも英語を身近に感じ、興味を持ったようです。8歳の息子は終始一歩引いた感じでしたが、一言、英単語を話したことが彼女たちに伝わったのがうれしかったようです。
　彼女達が帰った後も家庭内ではちょっとした英語が自然に飛び交うようになりました。また控えめな8歳の息子が「英会話を習うのは別に嫌じゃないよ」と言い始めましたことは大きな収穫だったと思います。

　食事について、1名はベジタリアンだったため肉ではなく魚介類にするなど配慮が必要でしたが特に大きな問題はありませんでした。どの食事も喜んでもらえたようです。特に人気だったのは、鳥のから揚げ、天ぷら、だしまき玉子でした。刺身や梅干しやお好み焼きなど、気が進まないものでもNOではなく、ひとまず挑戦してみるという前向きな姿勢だったのでこちらも気持ちが良かったです。恐る恐る食べてみてみると意外と美味しいというリアクションでした。「日本食が好きになった」と言ってましたので彼女たちにとっても良い経験をさせてあげることができたのではないかと思います。

　彼女たちはインターネット（google earth）を使いこなし、スロベニアのことを紹介してくれました。地図で場所を示してくれたり、自然豊かな美しい風景や動植物、街の雰囲気などを画像で見せてくれたり、文化のことなどいろいろ話をしてくれました。日本は夜なのにスロベニアは朝だということ、スロベニアから日本までは飛行機で16時間くらいかかること、スロベニアまで車では行けないことなど、うちの子供たちにとっては驚きの連続だったようです。初めて世界を感じることができた瞬間だったのではないでしょうか。
　また、彼女たちはジャンボリーの魅力についても話してくれました。「こんなに良い経験は他ではできない、この経験は一生の宝物だ」と彼女たちは興奮気味に話してくれました。8歳の息子に対して「8年後のポーランド大会では私たちがスタッフとして参加するので待ってるよ」とジャンボリーへの参加を勧めてくれました。息子は「うん」とは言いませんでしたが少し興味を持ったようです。どうなっているかわかりませんが8年後が楽しみです。
　今回のホストファミリーの経験は子供たちにかなり強い刺激になったように思います。この機会を与えてくださり、段取りしていただいた皆様に心から感謝いたします。

都窪第2団　松岡家

□受け入れスカウト【スロヴェニア】
Ａｎａ　Ｇｏｓｎｊａｋ（アナ　17歳女子）Ａｎｊａ　Ｃａｒｌ（アーニャ　16歳女子）
□ホームステイ中にしたこと
・町内（久米）のお祭り見物・イオン倉敷でショッピング・外食（回転すし）・カラオケ・トイザラスでお土産購入（ぬいぐるみ）・スーパーで夕食の食材購入・近所の散歩・プリクラ撮影・家でＴＶゲーム
□感想
初めてのホストファミリーという事で緊張もありましたが、初対面での明るい笑顔、礼儀正しさに一安心。家に着いて「洗濯物はありますか?」の問いかけに二人声を揃えて「イエス!」と答えた時は、やっぱり女の子だと感じました。洗濯、シャワー後はやっと落ち着いたようでリラックスしていました。我が家は長男が世界ジャンボリー参加なので不在、長女（小６ボーイ隊）は緊張していましたが、綺麗なお姉さんが二人できたみたいで嬉しそうでした。
ただ、言葉の壁はやはり厚くお互いに伝えたい事が伝えられなかったり、相手の言う事が理解出来なかったりと、コミュニケーションがなかなかとれなかったことが少し残念でした。（英語をしっかり勉強していなかった事をいまさら後悔）それでも、片言の英語と身振り手振りで会話をしてお互い理解出来た時は嬉しかったです。
ホームステイのスカウトを見て感心した事は、外出時に服装はＴシャツ、ホットパンツ、サンダルとラフな格好なのに必ずチーフは着用していたことです。ホームステイ中もスカウトの活動中というスカウトとしての誇りがあるように感じました。町内のお祭り見物に行った時は地域の方の好意で盆踊りの輪に参加したり、やぐらの上に上がらせてもらい太鼓を叩いたりと楽しそうでした。

あっという間の三日間でしたが、貴重な体験をさせていただきました。息子と娘は今回ホストファミリーになった事で世界を身近に感じたようです。今後、英語を勉強して、またホストファミリーになりたいと言っております。ありがとうございました。

都窪第２団　須佐美家

□受け入れスカウト【スロヴェニア】
ティミー（Timotej Grobovsek 17 歳男子）・マテーイ（Matej Plecnik 15 歳男子）
□ホームステイ中にしたこと
久米のお祭りに行きました。金魚すくい、盆踊りをしたり、綿菓子、かき氷を食べて楽しみました。また、日曜日にはイオン岡山に行ってきました。３時間程散策をして楽しんでいただきました。夜は家でお好み焼きを作って食べました。あまり好きではないようでしたが作る過程を見て楽しんでもらえたのではないでしょうか?その後は、いとこと一緒に花火をして楽しみました。スロベニアでも手花火があると言っていました。

□感想
・とても礼儀正しく、とても好印象でした。スロベニア語はわからなかったので英語で話をしましたがこちらの聞き方が悪かったのか中々話せませんでした。とても申し訳なかったと反省。
・食事では箸を使うことが多かったのですが、使い方が非常に上手でした。聞いたら少し練習をしてきたと言っていましたが味噌汁の豆腐を上手に摘み上げていたのにはびっくりしました。
・帰った後、部屋を見るときちんと布団をたたみきれいにしてくれていました。
・子供たちは、緊張していたのか最初は中々話しかけませんでしたが２日目の夕刻から少し慣れたのか話し出しました。
普段経験できないことをさせていただきありがとうございました。とても大変な部分もありましたが、子供も親もよい経験をしたなと思っております。ありがとうございました。

都窪第２団　川原家

□受け入れスカウト【スロヴェニア】
イボ（Ivo Pajer 16 歳男子）・ギャスパー（Gasper Tratnik 15 歳男子）
□ホームステイ中にしたこと
　TV ゲーム（太鼓の達人、スマッシュブラザーズ）、空手道場での稽古参加（組手もしました）、回転寿司（イクラも生魚も食べました）、ラウンドワン（レースゲームにはまる。バッティングマシーン、ピッチングマシーン、卓球、ビリヤード等々）、手持ち花火、美観地区散策
□感想
　我が家に来たスカウトに関しまして、
1）とにかく何でもチャレンジをするという精神。
→例えば、寿司に関しても、何でも食べてみる、提案した食べ物もまずは食べてみる・・ただし、大浴場だけは NG でした。
2）嫌がらない
→疲れているだろうけど、どこに行こう、と言っても必ず OK の返事で、アクションが機敏だったことが印象的でした。
3）精神年齢が日本人の同年齢より大人びている印象。
→スロベニアの国の説明や、将来の就きたい仕事、家族の事等々、とても理路整然と説明してくれました。日本人で言えば、大学生ぐらいの感覚を持ちました。
故に、子供同士はやや壁があるように思え、密にコミュニケーションが取れなかったのが残念でした。（当然、言葉の障壁もあったでしょうけど・・・）
4）総括
→いずれにしても、今回のホームステイは、我々保護者にとりましても、大変良い経験と学び、気付きがありました。今後の子供へのグローバル教育、自国へのロイヤリティの持ち方、コミュニケーションの取り方（英会話）の指針となりました。子供達も全く異国の方々との交流により、大きな刺激を受けたと同時に、自身も世界ジャンボリーと、ホームステイ参加を強く意識し、何をすべきかを、おぼろげに感じ取った様子です。

　今回、貴重な体験をさせて頂いた、ボーイスカウト日本連盟様、ボーイスカウト岡山連盟様、都窪第２団様にこの場を借りて、深くお礼申し上げます。

都窪第２団　大森家

□受け入れスカウト【スロヴェニア】
ウルシャ(Ursa Pelikon 14 歳女子）・スペラ(Spela Adamic 16 歳女子)
□ホームステイ中にしたこと
　かるたやジェンガを家で一緒に楽しみました。初日の夕食では、手巻き寿司とビザのおもてなし。生サーモンを食べていました。
　外食では、昼食に蕎麦屋でかけ蕎麦を完食していました。夕食では、バイキングに行き、多国籍料理を紹介しましたが、洋風に偏っていました　>_<
特に、チョコレートの様な甘い物に目がないようです。(^o^)　花火を、近所の友達と一緒に楽しみました。(^-^) 西瓜・桃も大好きな様です。
□感想
　我が家に来られたスカウトは、１６歳と１５歳で英語が思うように通じず四苦八苦。(^。^;)?　でも、家での折り紙やボーリングを行い二国間のコミュニケーションを楽しみました！
　短い期間でしたが、有意義な時間をすごせて一生の思い出になったと実感しています。

都窪第２団　中山家

□受け入れスカウト【スロヴェニア】
オスカー（Oskar Kandare 15 歳男子）・アーバン（Urban Znidarsic 17 歳男子）
□ホームステイ中にしたこと
　将棋、花札、トランプ、ＵＮＯ、折り紙、建部の花火大会、家で花火、水鉄砲、中学校の部活見学(卓球部)、ボーリング、岡山イオンで買い物、外食（回転寿司）、友だちの家で焼き肉。

□感想
　二人とも行儀良くあいさつもしっかりできていました。箸も上手に使って、残さずなんでも食べていました。年上のアーバンの方がオスカーを指導する様子も見られました。部屋もきれいに使ってくれていました。私たちが英語が話せないので、もっとコミュニケーションを取りたかったのが残念です。それにもかかわらず、二人は常に笑顔で接してくれました。うちの子どもたちは消極的でしたが、一緒に遊んでくれました。とても良い子たちでした。

都窪第2団　田口家

□受け入れスカウト【スロヴェニア】
ウラ(Ula Dremel 21 歳 女子)・モイッツァ(Mojcaæ Cebul 30 歳女子)
□ホームステイ中にしたこと
　トランプ、ボードゲーム、BBQ、イオン倉敷、カラオケ、外食（ワールドビュッフェ）、温泉（大家族の湯）、スロヴェニアのお菓子ポテイツアを作ってもらいました。
□感想
　とてもタフでした。着いてすぐから休憩もせず子供たちとトランプやゲームで遊んでくれました。温泉がとても気に入ったようで、スロベニアにも作りたい！絶対みんな喜ぶわ！と言っていました。子供たちは、初めはホームステイに乗り気ではありませんでしたが、二人が帰ってからは、「ホームステイも結構いいもんだね。もう1日あったらよかったのに・・・。世界ジャンボリーには特に興味がなかったけど、行ってみたくなった！」と言っていました。子供たちは積極的にコミュニケーションをとっていたわけではありませんが、すごく良い経験になったんだなぁと実感しました。

都窪第２団　田中家

□受け入れスカウト【スロヴェニア】
ユレ（Jure Vrenko 29 歳 男子）･アンドレ（Andrej Smit 28 歳 男子）
□ホームステイ中にしたこと
　カラオケ、ショッピング、居酒屋
□感想
　食事はシチューをとても喜びました。ネギを入れて食べていました。カラオケにずっと行きたかったようで、２回も行って喜んでいました。大人（指導者）だったのでお酒も一緒に楽しみました。ヨーロッパ人らしく、ゆったりとした休暇の過ごし方などを教えてくれ、働き過ぎの日本人とは対照的でした。日本はとてもいい国だったと、家族と友人に伝えますと言われたことがとても嬉しかったです。

都窪第2団　尾崎家

□受け入れスカウト【スロヴェニア】
エヴァ（Eva Orsic 17歳女子）･サラ（Sara Rovan 14歳女子）
□ホームステイ中にしたこと
　ショッピング･川釣り･タイルワークショップ･はかま着付け、･ジェンガ･ももちゃりで街中サイクリング･おいしいパン屋で朝食、･麺つくりの見えるうどん（外食）･ワールドビュッフェ･和中華（外食）、･カフェでパフェ･２日目ビーバースカウトの活動に参加してもらい世界ジャンボリーのお話とゲームをしてくれました。
最終日、滞在中の写真をDVDに焼いてプレゼントした
□感想
　二人ともとても素直な仲のいいスカウトでした。わからないことは、年長のEvaが、Saraにスロベニア語で説明をよくしてあげていて安心しているようでした。旅行も経験豊富なようで、ほぼお互い英語で対話し、家族の話しや住んでいる付近の話をしたり写真の見せあいもしました。
　2日目のビーバースカウトの活動にも積極的に参加してくれてありがたかったです。ビーバー達の目をしっかり見て、話をしてくれました。3日目の朝、短時間ですが近所の川で釣りをしました。たくさん釣れたので大変悦んでいました。
　英語を勉強していればもっとコミュニケーションができたと思います。家族の意識も変えてくれるとても貴重な経験ができました。これも関係者の皆さんの奉仕のおかげです。ありがとうございました。

都窪第2団　武田家

□受け入れスカウト【スロヴェニア】
ラリーサ（Larisa Lesjak 14歳女子）・ヤーニャ（Janja Terzan 15歳女子）
□ホームステイ中にしたこと
　＊庭で近所の人と一緒にバーベキュー＆家で英語かるた、トランプ
　＊家カラオケ　ボーリング　パスタ屋でランチ　イオン岡山買い物、ゲームセンター(釣り　エアホッケー　等)

□感想
　我が家に来てくれたお二人は、気も遣ってくれているのだとは思うのですが、日本の味をどれも美味しいと言ってくれ、もてなす側としてはこんなに嬉しいことはありませんでした。でも、手巻き寿司や天ぷらよりも

一番好きなのはやはりパンや麺類のようでよく食べてくれました。
　子どもたちとの交流では、つたない英語も理解してくれ一緒に遊んでくれていました。息子たちはなかなか積極的にできなかったのですが、この経験によりいい刺激になったと思います。特に英語はできないといけないなということに気付いたそうです。それは、私も痛感していて今後英語の勉強をするきっかけになると思いました。二人はいろいろな問いかけにも、少し控えめに答えてくれ、とても好感が持てました。いつもまっすぐに目を見て話をしてくれ、わかりやすい英語を使って話をしてくれていました。到着してすぐの洗濯とシャワーを勧めた時の喜んだ顔がとてもかわいらしかったです。
　今回、このような機会を与えていただきありがとうございました。

都窪第2団　田中家

□受け入れスカウト【スロヴェニア】
イマヤ(Maja Vrecar 15歳女子)・フロリ(Flori Kermauner 17歳女子)
□ホームステイ中にしたこと
　夕食しゃぶしゃぶ、焼き鳥、後楽園（プロジェクションマッピング）、かっぱ寿司、はかま体験、花火、アニメショップ
□感想
　二人とも礼儀正しくて気のつかい方など日本人の感覚に似ていると思いました。マヤちゃんはアニメが大好きで7歳の娘とポケモンの話しで盛り上がっていました。スロヴェニアではポケモンキャラクターの呼び名が違うそうです。焼き鳥のソースと桃が気に入ったと言っていました。
　フロリちゃんは、趣味が読書の静かな女の子で、箸の使い方がとても上手でした。線香花火がキレイだと喜んでくれました。備前の刀剣博物館で甲冑を着たことが楽しかったそうです。名前入りの箸のプレゼントを渡すと、二人とも歓声を上げて喜んでくれました

岡山第4団　大林家

□受け入れスカウト【スロヴェニア】
Ursa　Primozic･Kristina　Susanik
□団としての歓迎行事
　書道、流しそうめん、おにぎり作り体験
1日目は、近所の盆踊りに参加、
2日目は、モールに行きたいとの彼女たちの希望で、イオンモール岡山に行きました。
　お菓子を大人買いしていたのと、うちの娘（小6スカウト）の希望でプリクラ撮影していたのが印象的でした。プリクラって仲良くなるのにいいみたいです。
　昼食は、回転すしで、いろいろな魚にトライしました。
　午後3時から団の交流会で、帰宅が7時過ぎ、ほっておくとお部屋に行ってしまうのは、どこの国も同じのようです。それでは寂しいので、声をかけてリビングでお話ししました。PCで、いろいろスロベニアの画像を見せてくれて説明してくれました。
□感想
　何より時間が短かったです。もう何日か、一緒にいられたら、もっと仲良くなれたかな、と思います。特に、娘がはずかしがって、話しかけたりできなかったようです。親は楽しかったです。
　二人とも、英語でのコミニケーションにまったく問題なく、指導者として小さい子にも慣れていて、優しくしてもらいました。気遣い、マナー、どれをとっても申し分なく、やっぱり、スカウトのこは、違うなあと感心しました。次回ジャンボリで、娘が彼女たちと再会できればいいのですが。

岡山第4団　田中家

□受け入れスカウト【スロヴェニア】
ジガさん、アリアージュさん（2名とも男性）
□団としての歓迎行事
そうめん流し、オニギリ作り、習字
□各家庭での様子
･回転ずしを食べに行った。お寿司、みそ汁を食べたが、小食なのかあまり食べていなかった。
･ラウンドワンでボーリングをした。あまり上手でなかったが楽しめた様子だった。
･ゲームセンターでUFOキャッチャーをしたり、カーレースゲームを子供と一緒にやっていた。
･ダイソーで買い物。バナナケースが面白いらしくプレゼントした。
･朝ごはんも小食のようで、シリアルに牛乳で良いというので、一緒に食べた。
□感想
･最初はコミュニケーションがうまくいかず、困りましたが、片言の英語と、翻訳アプリのおかげでなんとか通じていたようです。
･ゲームセンターが一番盛り上がっていて、レースゲームを何回もやっていた。また、UFOキャッチャーでは実際にクレーンの動きの見本を見せて、その後、2人にやってもらい、2人とも回数ぎりぎりで人形がゲットでき、良いお土産ができたなと思いました。
･2泊でしたが、良い思い出がお互いにできたのではと思います。

最後の日に2人からスロベニアの観光本をもらい、スロベニアの国に興味がわきました。
･受け入れまでは不安で一杯でしたが、実際に一緒に過ごしてみると何とかなるものだなと思いました。次回もこのような機会があれば、受け入れしたいと思います。その時までには英語を少しでも話せるようにしたいなと思います。最後に、このような機会を与えていただき、ありがとうございました。

岡山第4団　甲斐 洋史

□受け入れスカウト【スロヴェニア】　ネーザ、ピア

□感想

今回の受け入れでこの2人は私達の気持ちを思いやり、凄く気を使ってくれたと感じています。

自立心が強く、また、ボーイスカウト精神がとてもあるようにも感じました。と同時に自分の子供達の幼さや、未熟さを感じた3日間でした。これはきっと産まれ育った国の違いで差があり、また年齢も違うということは、事実としてあると思いますが正直これから我が子を育てて行くにはどうしたら良いかな?と凄く考えてさせられ、また、良い機会を与えて貰ったと感じています。最後に短い期間の中でまだまだやってあげれる事があったのになと今になって少し後悔の気持ちを強く感じています。貴重な体験をありがとうございました。

岡山第4団　丹　智昭

□受け入れスカウト【スロヴェニア】　Tilen Letner　Matic Pezdirc

□団としての歓迎行事

8月9日15時より　岡山4団で交流会

習字や歌、おにぎりつくりや流しそうめんをして交流しました。

□各家庭での様子

「岡山の面白いところに行きたい」というリクエストでした。「岡山の面白いところ?どこだろ‥」と考え、話をしていると、どうもスロベニアの動物園にはサルしかいないらしく、ゾウなど見たことがないというので、池田動物園に行くことになりました。

池田動物園に着いての二人の様子はすごく興奮するようでもなく、「やっぱり、イメージしてたのと違ってた?」と思いましたが、ヤギにせんべいをあげたり、フクロウの鳴きマネを教えてくれたり、キリンのえさやり体験をしたりすると、楽しそうで、クジャクの羽をお土産に買ってました。

二人はとても礼儀正しく、家の使い方など、簡単に説明するぐらいで困ることは何もありませんでした。お箸はうまく使えなくても、用意していたスプーンやフォークをあまり使わず、一生懸命お箸で食べてました。朝食はスロベニア風（?）にフランスパンにジャム、ミートボールや果物、オレンジジュースを用意すると、朝からたくさん食べてました。

うちの子供は、一緒にゲームをするのが楽しみだったので、和英辞書片手に、ゲームをして遊びました。夜は、パソコンの翻訳機能で、スロベニアの国をとても熱心に紹介してくれました。スロベニアの国のこと、日本のことをとても勉強している感じでした。日本茶をとても気に入り、おみやげに買っていました。

□感想

英語もしゃべれないし、子供も年齢が離れているのでホストファミリーなんてできるのかと迷いながら引き受けました。終わった今は、「ホストファミリーをしてよかった」の思いでいっぱいです。後押しをしてくださった団の方に感謝です。子供はこの日のために、スロベニア語を

ノートに書いたり、家の準備などを手伝って楽しみにしていました。しかし、実際始まってみると恥ずかしいのと、英語がしゃべれないという思いで、うまく関われていませんでした。年齢も離れているし、難しいのかな‥と思っていた2日目の夜、突然子供が「もっと話したい」と言い出しました。やっと慣れてきた感じでした。結局のところ、睡魔と最終日はお土産の買い物のバタバタで時間がうまく取れず、「もっといてほしかった‥」というのが子供の感想です。

私たち大人は、ホームステイは子供同士が楽しめれば‥とある意味気楽に考えていたのが一変。夜、スロベニアの話から、スロベニアの国の情勢、戦争と独立のこと、経済のこと、そして戦争と日本のことなどが話題になり、いかに自分が今まで日本について本気で考えてこなかったのか反省するとともに、今の日本は平和ボケしていると恥ずかしくなりました。高校の時から、こんなにも一生懸命勉強してホームステイしている二人に感心し、出会えたことをとてもうれしく思っています。とてもすばらしい経験ができたと思います。ありがとうございました。子供たちは、「スロベニアに行きたい、次のワールドジャンボリーに行きたい」と話しています。

西大寺第１団　ベンチャー隊　高畑 尚志

□受け入れスカウト【スロヴェニア】Neza , Tjasa

□感想

二人が来るまでは本当にコミュニケーションがとれるか不安でした

が、実際に来るととても話しやすくすぐに打ち解けてリラックスしてくれました ^^
二人に生野菜などは口に合わなかったらしく夕食は少し大変でしたが ^^;

二日目は緑化公園で行われていた朝市に行きかき氷を食べたりしました。３日間はとても短くすぐにお別れになってしまい残念です。また機会があればホームステイを受け入れたいです ^^
めちゃくちゃ楽しかったですよ ^^

岡山第 26 団　湯原　芳樹

□受け入れスカウト【スロヴェニア】レオン、マーティン

□感想

スロベニアスカウト２名を迎えて、東公民館で盛大に歓迎パーティーを致しました。一緒に料理を作り、ソーメン流しをしました。とても、面白かったようです。その後、室内で言葉が通じなくても、スカウト同志でお互いの国について教えあっていました。最後に、スロベニアスカウト達に一人ひとりからプレゼントを渡しました。

岡山第 17 団　菅野浩司

□受け入れスカウト【スロヴェニア】Tinkara、Ana

□感想

ことばは大切、でももっと大切なものは、伝えたいと感じること。少しの勇気。おもてなしのこころかな！

スロヴェニア 赤磐キャンプイン

□平成 27 年 7 月 25 日（土）～ 28 日（火）
□赤磐第 2 団 幡降野営場

スロヴェニア派遣団はジャンボリー参加に先駆け、7 月 25 日に赤磐第2団にあるキャンプ場に入ってテントを設営。そこを拠点に備前焼博物館、備前長船刀剣美術館、倉敷美観地区、後楽園等、岡山の名所を観光し、28 日にジャンボリー会場に移動しました。その間、食事から宿泊まですべて自分たちの装備でキャンプ生活をしました。たくましいですね！

セミナー「スロヴェニアを知ろう」

□平成 27 年 3 月 7 日（土）
□岡山国際交流センター 5 F会議室

ホームステイに先駆け、スロヴェニア共和国大使館の神足リエ氏をお招きして、スロヴェニアの文化や自然、人、食べ物などのお話しをお聞きしました。定員 30 名の部屋に 70 名以上の参加者が部屋の外にまで押し寄せ、大賑わいとなりました。

岡山第23団　茶　慶祐

□受け入れスカウト【スロヴェニア】 Neza , Tjasa

□団としての歓迎行事

23団としてはお抹茶体験と一輪差し体験をしました。お抹茶のときは正座をするのがどんどんつらくなってきて、最後には胡坐をかきながらお抹茶をいただく形になりました。ねりきりはやはり口に合わなかったようで、残されたスカウトが多かったです。茶道の細かい作法に苦戦してましたが、日本のわびさびを感じ取れたことと思います。23団のスカウトとの交流では、英語の通訳をできる人がリーダーだけだったので、あまり会話ははずんでいませんでした。日本の歌やダンス･踊りを取り込んだ方がみんなで楽しめたかもしれません。

子供たち（8歳と3歳）とは折り紙、あやとり、オセロ、ボールで遊んでもらいました。食事は麺類、たこ焼き、素材を生かしたとうもろこし、トマト･･･などあまり加工しない食材を提供しました。でも一番喜んだのは、食後のデザートにアルフォートというお菓子を出したら満面の笑みでおいしい！！と言っていました。やはり口に慣れた物が良かったのだと思います。ちなみに、食事は作れない、とのことだったので私が全て料理しました。たこ焼きは主人を中心にみんなで作りました。

最終日当日、時間があったので長男の小学校へ訪問。図書館で読み聞かせの会があったので体験してもらいました。校内を案内したとき二宮金次郎の銅像が気に入ったのか写真を撮っていました。

□感想

自分の英語能力のひどさにびっくりで、より一層の勉強が必要だと感じました。子供たちにはよい刺激になったと思います。（今回の機に留学したいと言われたらどうしよう･･･）機会があれば、またホームステイを受け入れたいと思います。

西大寺第5団　清水 尚子

□受け入れスカウト【スロヴェニア】 Petja Muck、Zarja Dremel
□行事
8月9日　町内の夏祭りに行って、カレーライス、焼き鳥、かき氷など楽しみました。
8月10日　夕方、西大寺観音院へ。Zarjaのお母さんは仏教徒だと判明。夕食に2人がパンケーキを作ってくれました。手巻き寿司を食べましたが、生魚、焼き海苔はちょっとNG。夜は花火を楽しみました。
8月11日　記念写真を撮って、good-bye
□感想
　スロヴェニアHOHO一行が西大寺教会に到着してから、やっぱり英語が通じなくて、いきなり大変でした。同じく23wsjから帰る娘を一緒に連れて帰ると説明するの、必死でした。それから3日間、一生懸命英単語を頭で探してました。でも本当にいい子たちでした。娘を迎えに出た車の中でしばらく待ってもらうのにエンジンかけてエアコン入れとこうと思ったのに、窓開けるからエンジン切って、no problemと言われ、そのようにしましたが、真夏の炎天下、徹底的にecologicalな人たちでした。英語で気の利いた話ができないホストファミリーに、日本で流行ってる音楽は何？とか、自分の名前の意味とか、いろいろ話題を提供してくれました。日本のことが好きみたいで、カタカナで自分の名前を書いて大事に持って帰ったり、漢字を覚えてる日本人はすごいと感心したりしてました。私たちが毎日見飽きてる風景にも、綺麗と言って、橋の上からの川の流れや田舎の風景を写真に収めていました。
　遠い国に来て、淋しいことや驚くこと、困ることもあるだろうに、いつもニコニコして気遣ってくれました。それでいて、食べられないものなどちゃんと伝えてくれて、しっかりしてるなあと思いました。スケジュールなど大抵のことは、OK、no problemでした。とっても可愛かったです。記念にフェルト石鹸、サイン入のチーフをもらいました。
　娘たちもそれぞれにコミュニケーションとってました。22wsjに行った上の娘はとても自然な感じで、下の娘はあまりしゃべらないけどわかってる感じでした。主人も夕食時には、iPhoneの話とかしてましたね。準備も含めて大変な数日でしたが、おかげで家は小奇麗になり、異国の風が吹き、さわやかな余韻を残してくれた2人でした。元気で活躍されるよう、祈ってます。

西大寺第5団　内元 仁美

□受け入れスカウト【スロヴェニア】 Izza　Polavder、Stasa　Pavlin
□団としての歓迎行事
　与島へ渡り、お昼ご飯を食べて瀬戸大橋を眺めてからクルージング。（写真はこのときのものです）そして、百均でのお買い物
□感想
　たたみの部屋を使ってもらいましたが、二人ともとてもくつろいでいるようにみえました。食事は個人差が大きいと感じました。食事を用意する前に好き嫌いなど尋ねてみると、一人は好き嫌いはあまりないが日本のものはよく分からないと。もう一人は好き嫌いが多いらしく、色々嫌いなものがあるけどトライしてみるとのことでしたので、色々作ってみました。言葉通り、一人は何でもおいしいと良く食べ、もう一人はこれはおいしい。けれど、これはちょっと・・とはっきりしていましたが、色々チャレンジはしてくれていました。
　お風呂はお湯を入れずに提供したところ、バスタブの中でシャワーを使ったようでした。夜、子どもたちと一緒に花火をしましたが、楽しそうにしていました。駄菓子やにも連れていきましたが、選んだのはチョコレートのポッキーでした。
　大人は最初は気を使って接していましたが、子どもたちは言葉が通じなくても全く関係なく、寝る直前まで彼女たちに提供した部屋で一緒に過ごしていました。クルージングに出掛けた時も気がつくと手をつないで歩いている姿を見かけ、本当に楽しんでいるようでした。スロベニアのこともたくさん教えてくれて、子どもたちにとっては世界地図を見るきっかけとなったり異文化を知ることができたりしたようでした。

西大寺第5団

エピソード＜食事＞

ベッドルームに小さい冷蔵庫を置き、ミネラルウォーターやスポーツドリンクを用意していつでも飲めるようにしておきました。
手巻き寿しの具材で、サーモンやチキンカツは喜んでいましたが、納豆はチャレンジしたもののごめんなさい・・・でした（笑）
海苔も初めてと言いつつ食べていました。たこ焼きのタコも初挑戦でしたが、気にいったようでしっかり食べていました。ソースやお醤油は使わず、そのままがよかったようです。

エピソード＜一緒にすごしたこと＞

初日到着後：荷物整理→Ｗｉ－Ｆｉ接続→オリエンテーション（作成しておいたスケジュール表を渡して説明）
→シャワー→夕食→コミュニケーションタイム→就寝

ジャンボリーから帰ったばかりだったので、ゆっくりとしたスケジュールになりました。夕食の手巻き寿しは、初挑戦の具材にも積極的にチャレンジし、上手に巻けて楽しそうでした。コミュニケーションタイムでは、ジェンカをしたり、ギターを弾いて歌ったり、スロベニアについて教えてもらいました。

２日目：朝食→教会学校→団で観光→帰宅→コミュニケーションタイム→シャワー→夕食→
コミュニケーションタイム→就寝

夕食のたこ焼きは、興味津々で、だんだん上手に丸いたこ焼きになってくると、食べるよりも作るのに一生懸命でした。夕食後は、娘（三女）お得意の折り紙で、キャラクター折り紙講座が開催され（笑）、夢中で折っていました。（長女、次女は睡魔に負けて早々に離脱でした）

折り紙⇒ミッキーマウス・ミニーマウス・プーさん・ピグレット・手裏剣・つる等

最終日：朝食→荷物整理→記念撮影等→教会へ（集合場所）

帰り支度をしていた彼女たちから、お礼にと手作り石鹸とガラスの置物をもらいました。
記念撮影をしたり、チーフ交換をしたり、またＦＢで友達認証したりした後、教会へ向かいました。

ホストファミリーを体験して

ステイをしていた２人が、とても礼儀正しく、また好奇心旺盛で、積極的にコミュニケーションをとろうとしてくれたおかげで、困ることもありませんでした。
はじめにスケジュール表を渡したので、次の動きがわかりやすかったと思います。
ただ、長女、次女が（ジャンボリーに参加していたため）ダウンに近い状態だったので、もう少し元気ならもっと違った展開があったのかも？
姉たちを補うように、三女、四女が頑張ってくれました。
私たちにとっても、貴重な体験になりました。

西大寺第5団

エピソード＜食事＞

苦手だったものは、生魚、焼き海苔。
喜んで食べたのは、パンケーキでした。

エピソード＜一緒にすごしたこと＞

初日到着後：部屋でひと休み→洗濯ものを出す→シャワー→町内の夏祭り→帰宅
→少し野菜を食べてもらう（お祭りの食事では野菜が足りないので・・・）
→家族で団らん→就寝

到着後、すぐに帰宅できず、子供の迎えがあるため教会で待ってもらうことになり、説明に四苦八苦しました。近所のお祭りに行くことになり、うちわを持って楽しんでくれました。お祭りの間、用事で２人きりになりましたが、気ままに食べたり、飲んだりしていました。

２日目：朝食→団で観光→生協で買い物→西大寺観音院→夕食→花火→シャワー→就寝

教会へ送って、出発まで教会学校の中高生科に放り込んだことを記憶しています。スカウトの要望で、スロベニアのパンケーキを作ってくれるとのことで、材料を買いにスーパーへ行きました。合間に２人でベンチで待っている顔は、普通の中学生（よそ行きの良い子ではない）だったので、少しホッとしました。
夕食の手巻き寿しは焼き海苔がＮＧだったらしく、２人でパンケーキをよく食べていました。
花火はとても楽しんでいました。

最終日：朝食→記念撮影→部屋の片づけ→主人の歯科医院へ寄って記念撮影⇒教会へ（集合場所）

彼女たちから、お土産（記念品）のフェルトの小物とチーフをもらいました
私たちからも、何か日本のものをと思い、娘の七五三の時に使用した和風の髪飾りをプレゼントしました。朝食も、昨夜のパンケーキを食べていました。やはり、いつも食べているものが落ち着くのだろうなと思いました。

困ったこと・失敗談（ :∀:）

就寝前に、翌朝何時に起きるか打ち合わせを忘れたこと。
時間が気になり、２人が寝ているところに戸を開けて確認しにいくハメになってしまいました。
良かれと思って用意した手巻き寿し。生魚はダメだと思っていましたが、それよりも海苔が苦手だったようで、たぶん紙のようだったので食べられなかったのだと思います。

ホストファミリーを体験して

家の準備が大変でした。１週間ほど毎日掃除をしました。
スカウトたちが来てからは、英語に慣れるまで大変。仕方ないのでどんどん話しました。
スカウトは、本当に素直で率直。礼儀正しく、可愛かったです。長期間、異国の地で本当によく頑張っていると思いました。
「食べられない。」と、はっきり自然に言えることに、文化の違いを実感しました。
家族全員で色々話せたらよかったなと思います。
主に、私（母親）と上の娘のみが、会話しました。

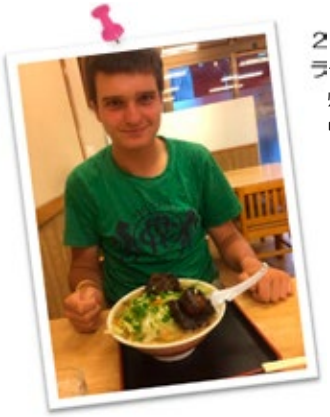
西大寺第5団

エピソード＜食事＞

一番喜んで食べくれたのは、２日目のラーメンでした。

エピソード＜一緒にすごしたこと＞

初日到着後：家でゆっくりと色々話をしました。買い物に行ったりしました。
スロベニアの話を聞かせてもらったり、夕食に一緒にお寿司を食べに行ったりしました。ピカチュウのチーフリングを探しましたが、見つからずショックを受けていました。



2日目：朝食→団で観光→１００円ショップで買い物→BOOK　OFF→ラーメン屋さん→シャワー→就寝
帰り道の 100 円ショップ、BOOK　OFF での買い物では、日本の中古品のゲームの多さにすごく驚いていました。

最終日：早起きしてマクドナルドで朝食⇒教会へ（集合場所）
バスが出発するまで、いろんな人と英語で話ができ、Facebook でも友達になり、とても有意義な　時間が持てました。

ホストファミリーを体験して

スロベニアのことが、いろいろ聞けて、また英語で会話できたのでとても良い勉強になりました。

西大寺第5団

エピソード＜食事＞

お好み焼きは喜んでくれました。ご飯はあまり好きではないと聞いていたので提供しませんでした。
朝食では、目玉焼きやハムはよく食べましたが、ヨーグルトやフルーツには手をつけませんでした。

エピソード＜一緒にすごしたこと＞

初日到着後：部屋を案内→荷物整理・洗濯物を出してもらう→夕食→地域の盆踊りに参加・一緒に踊ったり、屋台で買い物→シャワー→歓談→就寝

初めはコインランドリーに寄って、そこで洗濯してもらおうと思いましたが、洗濯物の量を見せてもらうと大したことはなかったので、家で洗濯しました。
夜はスロベニアの自然のことやスカウトの活動など、色々な話を聞くことができました。

2日目：朝食→ピアノ→教会へ送る→団で観光→教会へお迎え→スーパーで買い物→ピアノ→夕食→花火→シャワー→歓談→就寝

夕食にパラチンケというパンケーキを作ってくれて、皆でたくさん食べました。夜は花火を楽しみ、しっかり者で大人っぽいスカウトも高校生らしくはしゃぐ姿が印象的でした。スカウトソングを一緒に歌って、楽しい時間でした。また、スロベニア語も教えてもらいました。

最終日：朝食→荷物整理→教会へ（集合場所）

どこかへ出かけることを提案しましたが、特に行きたいところはないので、家でゆっくり過ごしてもらいました。
「色々な話をすることができて楽しかった。」と言ってくれて良かったです。

ホストファミリーを体験して

今までスロベニアについては何の知識もなかったのですが、今回の交流で関心を持つことができました。
また、スカウトのシンプルな生活ぶりが印象的でした。
入浴や食事については、心配もありましたが、スカウトに聞きながら用意をしました。
まずまず快適に過ごしてもらえたのではないかと思います。

西大寺第5団

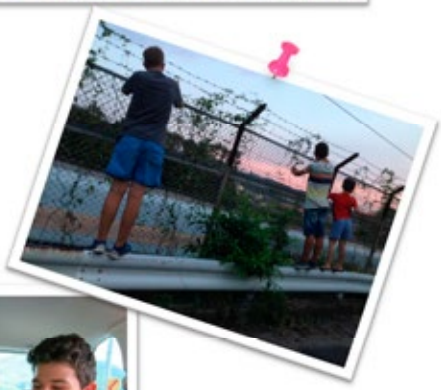
エピソード＜食事＞

一番喜んで食べてくれたのは抹茶味のキットカット、きなこ棒という駄菓子、それからカレーライス。
最初は少なめに本人がご飯を盛りつけましたが、その後、２回もおかわりをしていました！

エピソード＜一緒にすごしたこと＞

初日到着後：家で休憩→新幹線を見に外出→帰宅→熊山駅まで電車に乗って花火大会を見に行く→帰宅→就寝

新幹線の３００㎞／ｈの風が感じられるところへ連れて行ったら、フェンスにくっついて、何本も上り・下りの新幹線を見たり、写メを撮ったり、動画を撮ったりしていました。



2日目：団で観光

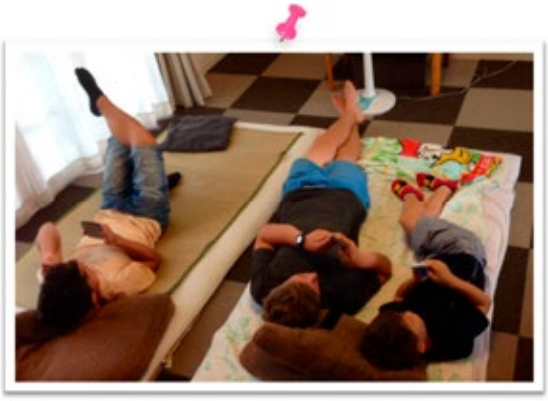
最終日：（母方の）実家へ行く→教会（集合場所）

実家の和室を見学してもらい、うちわとおちょこをあげました。車内で移動の時間にロープ結びを教えてもらい、息子が「ハンドカフ」気に入って、何度もやっていました。

とても丁寧に何度も別れの挨拶をして、一緒に食べたものの名前を聞いてきました。大変暑かったので、うちわが機能的だと喜んでいました。

ホストファミリーを体験して

とても新鮮で、楽しい時間を過ごせました。スロベニアという国を知ることができ、仕事（英語関係）に役立つ情報を得ることができました。



西大寺第5団

エピソード＜食事＞

お寿し、お好み焼きは、とても喜んで食べてくれました。お寿司ではイクラが苦手だったようです。

エピソード＜一緒にすごしたこと＞

初日到着後：部屋でくつろぐ→荷物の片づけ→洗濯物を出してもらう→シャワー→リビングで歓談（お土産、色々なものの交換）→夕食→ゲーム→就寝

疲れていたのもあり、シャワーを浴びてもらい、ゆっくりとくつろいでもらいました。夕食のお好み焼きは、喜んで食べてくれました。犬、うさぎを飼っているので、触れ合ったり、カードゲームをして、早々に就寝しました。

２日目：西大寺教会集合→マイクロバスで与島に渡り昼食→児島まで戻り遊覧船で船上観光→妹尾のSeria（百円ｼｮｯﾌﾟ）へ行き買い物→帰宅→浴衣を着てくるくる寿し→花火→歓談→就寝

西大寺第５団で受け入れをしているスカウト全員集合して、一緒に一日を過ごしました。百均はとても良かったようで、喜んでもらいました。家に帰ってから、浴衣に着替えて、家族一緒にくるくる寿しで夕食を楽しみました。とても沢山食べていました。二人ともイクラは No～！！と言っていました。その後、花火を子供と一緒に楽しみました。

最終日：朝食は２人が作ってくれた→平島の駄菓子屋さんへ⇒教会へ（集合場所）

前日の夜、２人が朝食を作ってくれると言い、クレープみたいな作ってものをくれました。「ヌテラ」が我が家にあることにビックリしていました。朝食後に荷物をまとめて、平島の駄菓子屋へ行きました。かなりの量のお菓子を買っていました。

ホストファミリーを体験して

最初は不安だけでしたが、出来ないなりにジェスチャーで、会話も出来て、とても楽しい時間が過ごせました。手違いで、スカウトではなくリーダー２人が来ることになりましたが、逆に良かったように思いました。
お互いに Facebook で交流も続いていますし、とても良かったです。子供達にも良い経験になりました。

西大寺第5団

エピソード＜食事＞

何でもトライして食べてくれました。その中でもカレーライス、お寿司、焼き鳥、枝豆が気に入ったようです。
回転寿しでは注文用のディスプレーに驚き、線路上を自動でお寿司が運ばれる様子に驚き、大変はしゃいで沢山食べました（＾＾）
出されたものは、残さず食べました。無理をしている風もなく、これは何というものか？と尋ねながら、もぐもぐと色々なものを食べるのは、２人が好奇心旺盛に楽しく食事をする様子が伺えて、こちらも嬉しくなって、いつもより食事が進みました。

エピソード＜一緒にすごしたこと＞

初日到着後: 部屋を案内→荷物整理・洗濯物を出してもらう→サロンで洗髪・ヘアカット→ゆずき（温泉）→帰宅→夕食→歓談→花火→就寝

コインランドリーと我が家での洗濯、どちらが良いか尋ねたら、洗濯をお願いしたいということで、家で洗濯しました。たたんで渡すと、きれいにたたんでくれて嬉しい、ありがとう！とお礼を言ってくれました。主人が経営する美容サロンでは、大喜びでシャンプー・カットをしました。イーニャは短く髪を切りました。ミンツアは腰まである長い髪が自慢で、そろえる程度に毛先だけ切りました。
スーパー銭湯（温泉）は、大大大好き（very very very love!!!）と、一番のお気に入りのようでした。大学生の娘と一緒に行き、たっぷり２時間は帰ってきませんでした。

２日目：朝食→団で観光→お迎え→イオンモールで買い物→夕食（回転寿し）→カラオケ→帰宅→シャワー→歓談→就寝

団で観光後、両親に少し値が張っても、きちんとしたお土産を買いたいというので、イオンモールにでかけました。イーニャのお父さんは水彩画を描くのが趣味で、是非日本の毛筆を買ってきてほしい、と頼まれ、一生懸命探す様子にホンワカしました。他には、お母さんに良質のちりめんのがま口財布を買っていました。ミンツアは、家族全員緑茶が好きなので、品の良い緑茶をお茶屋さんで買い求めていました。夕食は私たち家族に加え、娘の大学の友達も呼んで一緒に回転寿しを食べました。その後、大学生達とカラオケに行きました。最初は恥ずかしがって様子を見ていただけでしたが、２人とも１曲歌うと恥ずかしさはどこかへ飛んで行ったらしく、ガンガン歌いまくったようです。Jason・Mraz をはじめとするアメリカンポップスを歌ったようです。日本の曲では JUJU の「ラストシーン」がえらくお気に入りでした。

最終日：朝食→荷物整理→吉備津神社で観光→岡山ドーム（集合場所）

最終日の朝食後、フェルトで作った小物とスロベニア連盟のエンブレム、手作りのはちみつ石鹸をお礼にといただきました。２人が姿勢を正してきちんと立ってお礼の言葉を言ってくれました。ジーンとしてしまって、思わず２人をハグしてしまいました。集合時間まで時間があったので、家の近くの吉備津神社へ行きました。ミンツアは神社・仏閣を見るのが好きで、大変喜んで写真を沢山撮っていました。お道化者のイーニャは鬼のお面やお相撲さんの絵、白い袴姿の神官に興味深々で、質問攻めにあい、英語で説明するのに四苦八苦しました。

ホストファミリーを体験して

「ホストファミリーのミヤモトです。」と初対面で挨拶したら、ヒューッ！！と叫んで、嬉しそうに飛び跳ねながら「アイム　イーニャ！！」「アイム　ミンツア」と自己紹介してくれました。いつも明るく笑顔でテンションの高いイーニャ。イーニャより一つ年上で、落ち着いた雰囲気で、しっかり者のミンツア。イーニャは、英語も仏語も得意で、ミンツアに時折通訳してくれました。将来、医師になりたいそうです。お父さんは映画技師。お母さんは工場で働いているそうです。イーニャはカブスカウトのリーダーもしています。いつもガヤガヤ騒ぐカブスカウトたちに手を焼いているんだ、と楽しそうに話してくれました。ミンツアのお父さんは生物の先生。お母さんは国語の先生だそうです。ミンツアは帰国したらすぐにロシアに語学留学するとの話でした。将来は旅行会社で働いてみたいと話してくれました。
キュートで本当に可愛らしい２人と、また一緒に過ごすことは、たぶんもうないだろうなと思い、２日間を大切に過ごしました。２人はいつも笑顔で、自分たちのしてほしいことや YES と NO をはっきり伝えてきました。娘と私は英語で、主人は仏語で会話しました。イーニャは高校で仏語を勉強しているので、仏語が話せて勉強になって嬉しい！と言われ、主人は目尻が下がりっぱなしでした。スロベニアのことも沢山話してくれました。経済が滞り、賃金を払って貰えないアルバイトの事や、豊かとは言えない生活についても話してくれました。

何でも挑戦したいので、時間がもったいないから、ぼんやり休んでいたくはないと、食事や買い物だけでなく２日間の生活全てを存分に楽しんでいました。そうした彼女たちから、私たち家族も前向きなエネルギーを沢山もらいました。別れが辛かったです。年始には手作りカードと同じく手作りのビーズのブレスレットを家族に一つずつ送ってきてくれました。
また、日本に来る機会があればぜひ我が家で過ごしてほしいと願っています。
私たちもまた、叶うならば是非スロベニアを訪れてみたいです。
素晴らしい機会を与えて頂き、感謝しています。

西大寺第5団

エピソード＜食事＞

天ぷらのおくらは初めて食べたらしいのですが、美味しいと喜んでくれました。
１人は好き嫌いが多く野菜は苦手と言っていましたが、色々食べていました。
みたらし団子はあまり好きではないとのことでした。
うどんも苦手だったようです。

エピソード＜一緒にすごしたこと＞

初日到着後：部屋で休憩→子供達と遊ぶ→お風呂（シャワー）→夕食→歓談→Ｗｉ－Ｆｉ接続→就寝
Ｗｉ－Ｆｉ接続に時間がかかりました。小学校低学年の子のおもちゃで一緒に遊んでくれました。
ポケモンが好きだとわかり、会話はほとんどなくても子供達と楽しそうに遊んでいました。

２日目：団で行動→帰宅後→お風呂（シャワー）→部屋で休憩・子供と遊ぶ→夕食→歓談→花火→就寝
この日は１日行動を共にしたので、帰ってから会話も増え、スロベニアの事を聞いたり、
子供たちの話をしたり、子供達をだっこしてもらったり一緒に写真を撮ったり色々することができました。

最終日：朝食後→西大寺を車で案内→駄菓子屋でお菓子を買う→おもちゃ屋→教会へ（集合場所）

西大寺第５団ホームステイ報告

～２３WSJ　スロベニアスカウトと過ごした２日間のアンケートから～

西大寺第5団は、１６名のスロベニアスカウトと２名の女性リーダーを２名ずつ９家庭で受け入れました。１６名のうち、６名は男子スカウト、残り１０名が女子スカウトです。ホームステイ終了後、ホストファミリーにアンケートを行い、９家庭のうち８家庭より回答をいただきました。回答をベースに報告を行います。

受け入れをする前に不安・心配だったことがありましたか？

- １．言葉が通じるかどうか
  - ・うまくコミュニケーションができるだろうか・・・
- ２．どのような食事を出せばよいだろうか
- ３．掃除や片付けが大変だ
- ４．その他
  - ・スカウトに快適に過ごしてもらえるだろうか
  - ・満足してもらえるだろうか

受け入れ準備で新しく購入したものはありますか？

- シーツ　・・・　５戸
- 枕　・・・　２戸
- 歯ブラシ　・・・　２戸
- エアコン　・・・　２戸
- 入浴タオル　・・・　２戸
- 特に購入したものはない　…３戸

西大寺第5団

食事について（初日夕食）

▶夕食（初日）
回転寿し　手巻き寿司　焼きとり
お好み焼き　焼きそば　ラーメン（外食）
カレーライス　お祭りのカレー
天ぷら（鶏、カボチャ、おくら、さつまいも、れんこん等）
枝豆　サラダ　お祭りの屋台の食事

食事について（2日目朝食）

▶朝食（2日目）
おにぎり　ロールパン　サンドウィッチ
食パン　クロワッサン　グラノーラ　シリアル
スクランブルエッグ　目玉焼き　ソーセージ
ハム　ベーコン　サラダ　フルーツ
ジュース（オレンジ、野菜）　ミルク
紅茶　コーヒー

食事について（２日目夕食）

▶夕食（2日目夕食）
手巻き寿し　広島風お好み焼き　お好み焼き
たこ焼き　ラーメン（外食）
カレーライス　サラダ　フルーツ（桃）
ぎょうざ　うどん
スロベニアスカウトの手料理（パラチンケ）

食事について（最終日朝食）

▶朝食（最終日）
食パン　ロールパン　グラノーラ　シリアル
パラチンケの残り　スープ　オムレツ　ゆで卵
ハム　サラダ　フルーツ
ジュース（オレンジ、リンゴ）　ミルク
紅茶　コーヒー　近くのマクドナルド

西大寺第5団夕食ベスト３

寿し（回転寿し、手巻き寿し）

１位はやはりお寿司❤
回転寿司を食べに出かけたり、家で手巻き寿司を作ったりしました。
好きな具は、サーモン、チキンカツ。
納豆は苦手だったかな。
海苔も初挑戦だったスカウトが多かったようです。
醤油をつけずに、そのままお寿司を食べるスカウトも多く見られました。美味しいのかな？！

西大寺第5団夕食ベスト３

カレーライス

２位は堂々のカレーライス！！

２回もおかわりをしたスカウトもいました。

西大寺第5団夕食ベスト３

お好み焼き

３位は定番のお好み焼き。
ソースの香りと旨みが決め手のお好み焼きですが、
ソースが苦手なスカウトもいたようです。

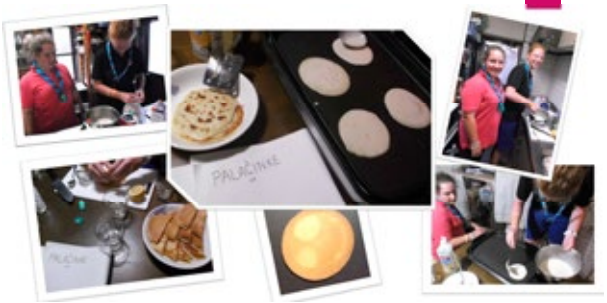
西大寺第5団夕食ベスト３

お好み焼き

ソースをつけずに食べたスカウトもいました。

ソースなしのお好み焼きって・・・(^_^;)

スロベニアスカウト手料理～パラチンケ～



パラチンケとは？

スロベニアスカウトが、夕食にパンケーキを焼いてくれた家庭がありました。

パラチンケは、主にルーマニア、ハンガリー、チェコ、クロアチア等の東欧諸国で食べられる料理で、小麦粉を薄く焼いたクレープのようなパンケーキで、砂糖やジャムなどを包んで食べるものです。ハンガリーではパラチンタ、チェコではパラチンキ、ドイツではパラチンケと呼ぶようです。

どの家庭も美味しくパラチンケをいただきました。

西大寺第5団

スカウトはどのように宿泊しましたか？

①和室客間にスカウトのみで布団・・・４戸
②洋間にベッドを用意　・・・２戸
③子供たちと同じ部屋の2段ベッドの上下段
・・・・１戸
④リビングに布団・・・１戸

◆洋間にベッドと布団を用意したご家庭では、スカウトはいずれの寝具も使用しないで、自分たちで持ってきた寝袋で寝たそうです。
シンプルで謙虚な生活ぶりがうかがえて感心したそうです。

◆２段ベッドを提供したご家庭は、普段２段ベッドに寝ている子供たちが、床にマットレスを敷いて、みんなでスロベニアスカウトと一緒に寝ました。気取らず暖かいもてなしです。

何をして過ごしましたか？

家で
歓談　花火　ロープ　音楽（スカウトソング、ピアノ、ギター）
折り紙　ジェンガ　カードゲーム　ポケモンおもちゃで遊ぶ

お出かけ
地域のお祭り　買い物（スーパー、百均、デパート、駄菓子屋）
ヘアカット　カラオケ　スーパー銭湯　ブックオフ
観光（新幹線、吉備津神社、西大寺観音院）　団で瀬戸内海クルージング

スカウトは滞在中買い物をしましたか？

- お祭りの屋台で綿菓子、かき氷などのお菓子　射的などのゲーム
- 駄菓子屋で大量のお菓子
- 百均で・・・日用品　千代紙　　扇子
- ポケモンのおもちゃ
- ペットボトル飲料
- 友人、両親へのお土産（デパート）・・・お茶、がま口財布、毛筆

スカウトにお土産をあげましたか？

- 和風の髪飾り（スカウトが七五三の時に使ったもの）
- うちわ と おちょこ（いずれも実家で使っていたもの）
- 千代紙セットと日本手ぬぐい
- 団のチーフと日本のお菓子
- 駄菓子を色々
- 備前焼の小物
- お好み焼きの粉とソース
- ユニクロのＴシャツ
- あげなかった

困ったことはありましたか？

▶お金をおろしたいと言われた時どうしていいかわからなかった　・・・　１戸
▶お金をエクスチェンジしたいと言われ、あわてて銀行を探した　・・・　１戸
▶特にない　・・・　６戸

主に会話をし、お世話をしたのは誰ですか？

▶スカウト本人　・・・　３戸
▶父親　・・・　１戸
▶母親　・・・　３戸
▶その他　・・・　祖父母　１戸
▶家族全員まんべんなく接した　・・・　４戸

その後スロベニアスカウトと交流がありますか？

- ＦＢを通じての交流している・・・４戸
  ・ＦＢで誕生日メッセージが届いた
- 手紙のやりとりをしている・・・１戸
  ・手作りの新年の挨拶カードと贈り物（ビーズの腕輪）が届いた

機会があればまたホストファミリーをしてみたいですか？

▶はい　・・・６戸
▶いいえ　・・・０戸
▶わからない・・・２戸

23WSJ に伴うホームステイ受け入れ第 2、3 地区では、UK ユニット 17「サリー NAKAMA 隊」のイギリス 41 名を 8 月 8 ～ 10 日の 2 泊 3 日で受け入れました。

8 日は、新幹線岡山駅ホームでの県連との出迎えから、ホストファミリーが出迎える倉敷市役所 1 階市民ホールへバスで移動しました。歓迎会・市長表敬訪問では、伊東市長からの歓迎挨拶、UK17 代表挨拶があり広田県コミ、萱岡地区協議会長からも歓迎挨拶がありました。UK17 から伊東市長へのプレゼントがあって、市長からも特別のプレゼントが、「サリー NAKAMA 隊」の一人一人に手渡しされました。また、岡山連盟へのプレゼントがあり、広田県コミが受けられました。県連からのワッペンとピンバッジ、地区からの陶器の「すいんきょ」のプレゼントでは、市長から「桃太郎」や「すいんきょ」について、ユーモアのある説明をして頂きました。そして、41 名のホームステイ家庭の紹介と引継いで、各家庭に移動となりました。

10 日の送別会は、市役所 1 階郵便局前広場で行われました。UK17 代表挨拶があり、井上教育長や市の方々から送別のことばがありました。また、光畑県連副コミは、今回のホームステイに対して UK17 からプレゼントを受けられました。地区お礼のことばがあり、エール交換で盛大に閉会し、UK17 の一行を見送ることができました。玉島第 5 団の西野副委員長には、通訳にご苦労をおかけしました。県連役員の方、地区の皆様、ホームステイにご支援ご協力頂いた皆様、大変お世話になりました。

イギリススカウトの受入家庭　41名

倉敷 14 団		
	渡辺　清心	カースティ、ナタシャ、スザンナ
	三宅　裕介	チャーリー、ジョシュ
	笠原　健一	カラム、トム
	秋岡　謙作	コニー、ローレン
	角南　聡美	ジェイムス、トムーマス
倉敷 16 団		
	三村　俊久	ベス、ハナ
玉野 1 団		
	山田　達也	マット、マット
	松本　泰明	ルーシィー、メイヴィー
	藤原　裕和	ハーヴィー、トム
	桑原　淳	トム、ウィル
	宮崎　学	ミキ、ニック
総社 3 団		
	森田　修司	アンヤ、ベス
	倉本　一男	ベッキー、リヴィー
	藤井　美江	ハナ、リーラ
玉島 5 団		
	原田　秀之	メガン、ショフィー
	西野　潔	ハズ、ソーイ
	石村　富久美	ジェイク、ザック、エリック、ショーン
	蒲原　記子	ルイス、サム
浅口 1 団		
	西　規雄	ジョーダン、キアラン

ようこそ、おかやまへ！

Welcome to Okayama!

イギリス

23WSJ の思い出　倉敷第 16 団　三村 俊久

今年の夏は今までの夏とは違っていました。七月に入った頃から、うきうき、そわそわして仕事が手に付きません。半ばを過ぎた頃から日本列島を猛暑が襲う、その中を倉敷第 16 団のスカウト達は山口へと向かいました。そう、あの朝霧高原で日本初の 13WSJ が開催されて早四十四年が経ち、待ちに待った第二十三回世界スカウトジャンボリーがついに日本の山口県へやって来るのです。

私はスカウト家族の中で育ちました。亡き父、兄、従兄弟、又従兄弟計八名がスカウトです。進行形なのは一度スカウトになると退団しても死ぬまで、いや死んでもスカウトだからです。又従兄弟の一人が 1967 年にアイダホ州で開催された 12WSJ へ参加して「世界ジャンボリーは凄いぞ」と目がくらむ様な写真スライドを見せてくれました。今回ベンチャーで参加した末っ子のお蔭で会場に行かせてもらうことができました。

倉敷のスカウト指導者の方々と兄の六名で岡山0903隊へ慰問に出かけました。氷や交換品などを山ほど積んで、二日間居ただけなのですが熱中症寸前です。感動のパワーが体力をカバーしたみたいで全員無事生還しました。開催中に一滴の雨も降らない異常気象が続きます。これぞジャンボリーの醍醐味、参加したスカウト達はあの極暑が今となれば懐かしい筈です。

倉敷に戻っても Facebook、YouTube で数分おきに大量に投稿される動画・写真で各国の隊の様子を楽しませてもらいました。

その 23WSJ がとうとう終わりを告げるのです。祭りの後の寂しさを感じる間も無く、いよいよ我家で外国のスカウトがホームステイをします。夢の様な出来事です。ホームステイが決まってから指折り数えて待っていました。それもスカウト発祥の地、イギリスのスカウトです。

八月八日倉敷市役所で歓迎会が行われ Beth Jefferies(ベス) と Hannah Peterkin(ハナ) の二人が紹介されました。とてもチャーミングなロンドン生まれの十七歳の女の子二人です。お揃いの巨大なバッグを車のトランクへ入れ一路西坂台の我家へ。妻は仕事で数年前から単身赴任、長女は三月に横浜へ嫁に行き、長男はまだ山口、英会話もままならない次女と私だけ。とりあえずシャワーとアフタヌーンティ。夕食は回転寿司へ、注文品がコンベアに載って高速で届くのに『クール!』。二人共、天婦羅うどんなんか注文するから主役の寿司は二皿ずつで満腹です。

家に戻り道路で花火を楽しみ、火花でアスファルトに「和」と二人の名前を。近所の小母さんも一緒で凄く楽しそう。居間に戻り、二人がそれぞれ生い立ちのミニアルバムを披露してくれ、そのアルバムをプレゼントしてくれたのに、次女と父は感激。クッキーの詰め合わせ、紅茶の詰め合わせ、エプロン、多数のワッペンとキーホルダetc、重かったろうとまたまた感激。パソコンで自分達の Facebook に投稿を済ませ、床の間のある日本間に布団を敷くのを二人も手伝い、二人にとって長かったであろう一日が終わりました。

翌朝は次女が作った朝食、焼鮭、切り干し大根とあげのおひたし、ほうれん草のおひたし、豆腐の味噌汁をラストサムライを鑑賞しながら完食しました。納豆は一口ずつ食べて『Please forgive me.』勘弁して!

次女が片付けをする間に三人で総社の国分寺へ。五重塔に感激し、こうもり塚古墳に驚き、吉備路文化館で版画展を見学。一度家に戻り次女を乗せイオンへ、ベスが父母の土産に湯のみを購入。アメリカの女性スカウト達と遭遇。蕎麦屋でハナがカレー蕎麦、ベスがざる天婦羅蕎麦を完食しました。毎回食べっぷりが気持ち良いです。

十六団カブ隊の杉本隊長と美観地区で待ち合わせ、五人で町並みを散策しました。杉本隊長にジーンズを穿いた熊のキーホルダーを買ってもらい笑顔の二人。堀沿いでイングランドの違う団の人達に遭遇ししばし談笑。

まだ此処に留まりたい彼女達を車に乗せ倉敷駅北口へ、岡山0903隊が凱旋するのをお出迎え。大型バスから降りてくる真っ黒に日焼けしたハイテンションのスカウト達とハイタッチ。やはりスカウト同士、直ぐに意気投合。見ていて気持ち良い、何故か目頭が熱くなります。十六団副長の渡辺君の顔を見て何故かホッとしました。英語に関しては百人力だ。

今まで通じあえなかったことをお互い通訳してもらう。お蔭で色々なことが決着しました。長男もたどたどしい英語で挨拶し握手をする。誰もが笑顔を絶やさない、ジャンボリー仲間の至福の時間が過ぎていきます。

無情に時間は経過し、次々に別れが訪れる。我家へ帰り、長男は二週間の垢を落とし着替えを済ます。何やら盛り上がっている三人の娘達に『ディナー食べにゴー』今夜はお好み焼きを「南風」へ食べに、渡辺副長も呼んでいる、そう通訳です。みんなで鉄板を囲んで食べる習慣がバーベキュウ以外無いそうです。

ベスはホッケーの選手、ハナはサッカーの選手。(ナベちゃん通訳) そういえば家族アルバムにチームの写真が載っていたのを思い出しました。ハナはジュニアのメンバーでイングランドの優勝チームの一員らしい、凄い!イングランドのなでしこだ。学校とスポーツとスカウトを涼しい顔でこなしているのです。

ジャンボリー前にスカイツリー、ディズニーリゾート、浅草など東京を観光してきたみたいなので渡辺副長が『日本に来て何が一番美味しかった?』と訊くと。『今朝の悠花が作ってくれた朝食が一番美味しかった』と言ってのける十七歳の騎士道には感服。副長のお蔭で凄く盛り上がり店員さんも入れての記念撮影。

我家へ戻り再び三人娘が布団の上で次女がイオンで買った土産を渡している。笑顔が絶えない夜が更けて行く。

最後の朝は私が食事を作るため五時半に起きたのですが、既に二人共着替えて布団もたたみ、荷造りをしていました。メニューは得意のロールパンのサンドウィッチとヨーグルトと紅茶。違わず完食。

友人の Facebook をチェック。するとホームステイ先で浴衣姿の記念撮影の写真を発見。羨ましい顔を一切見せず笑顔で私達に画面を見せてくれる。彼女達が来る前から下駄と浴衣をお土産にしようかなと思っていました。次女は仕事なのでスマホを見ながらさようならの挨拶、別れは悲しいね。

車で出て行く次女を玄関先で見えなくなるまで手を振る二人。二度と会うことは無いかもしれません。

四人で裏山の福山にある浅原安養寺の巨大な毘沙門天へ、巨大な釣鐘に入った二人を長男が鐘を連打、悲鳴。そのままドンキホーテへ行き、前もって長男がスマホで確認していた浴衣セットを二人に選ぶ様に勧める。

浴衣を見た瞬間、輝いた笑顔の二人だったが顔を見合わせ下駄と帯がバッグの中で潰れるからいりませんと言う。(長男通訳) 仕方なく横に吊るしてある甚平を勧めると値段を確認して (千円しない) 笑顔で首を縦に振る。そう、値段で遠慮していたのです。白地にピンクの蝶と花柄に決定。

別れまで残り僅かになって来ました。通じない上に余計に口数が少なくなってくる。お昼もまわったので集合場所の市役所へ行く前に従兄弟の子がやっているラーメン屋へ寄り、鶏だし麺と餃子のセット、もちろん最後も完食。うどん、日本蕎麦、ラーメンと麺尽くしの三日間でした、御免ね。

市役所に早く着いた私達は誰も居ない歓迎会が行われたホールへ行き、三女と四女と長男がふざけたダンス、それを動画で撮る父。何せ日本のお父さんと言われたもので。十一階の展望台から倉敷の街と遥か彼方に見える西坂台団地と次女が勤める病院を眺望。二人はしばらく感慨深く眺めシャッターをきっていた。

一階に下りて行き人ごみの中、友人を見つけハイタッチ、笑顔で大はしゃぎ。式典が終わりバスに乗り込む二人と最後のハグ。幸せな人生を送れることを願います。

片言の、さ・よ・う・な・ら

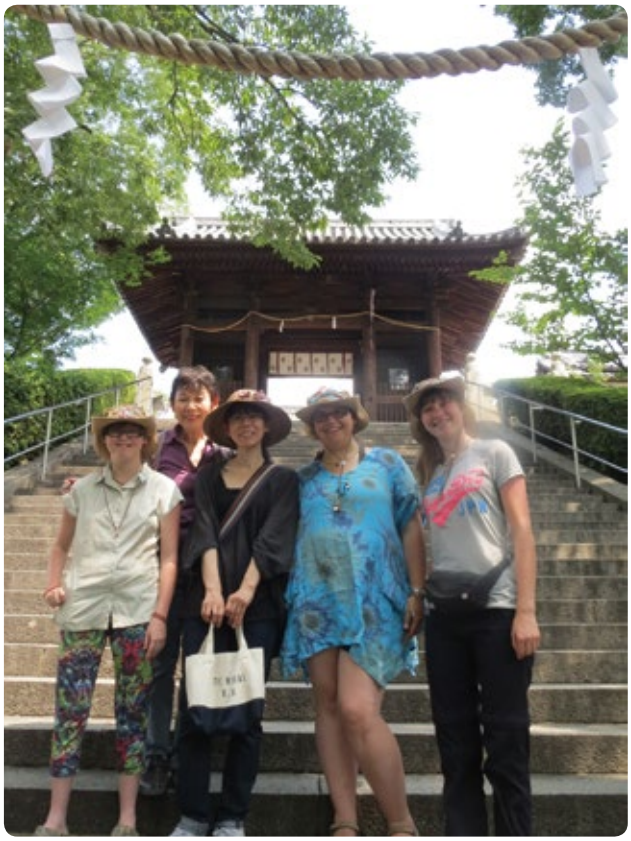
後日談　もち吉の煎餅を土産に渡したら帰国してから Facebook に母親と食す写真。口に合ったらしくインターネット英語版の注文サイトを知らせる。甚平を着た写真も送られる。二人が地元の新聞を飾った記事。二人がインターネットスカウトショップの表紙になったこと。

23WSJの思い出　倉敷第14団　VS隊長　渡辺 真道

私が23WSJ輸送部輸送管理班長としての任務で、受け入れ期間中も帰宅できないことが確実な状況であったため、妻と長女及び長男家族の協力を得て受け入れることができた。以下は、家族の感想です。

○受入スカウト
イギリス17ユニット　サリーNakama隊
・ナタシャSelby女性14歳・スサンナShepard女性17歳
・カースティHorsman女性IST
○受入の様子
・8月8日（土）
午後地区歓迎会
4時過ぎに帰宅、洗濯も勧めたがうまく伝わらなかったのかシャワーのみで荷物の片づけ。長男家族も合流しまぜ寿司に、一人が小麦粉アレルギーと聞いていたが、原料に入っている醤油程度はOKとのことで急遽手巻き寿司も加えてにぎやかに夕食を楽しむ。和室を使ってと話すと喜んで、お布団で寝るのは『心地よい』、この言葉を辞書で引いて日本語で伝えてくれた。次の日の予定を確認し合って早めに就寝。
・8月9日（日）
午前中は、阿知神社にて瓦屋根街並ビュースポットや美観地区を散策、希望で民芸館も見学。午後は、東京ではスカイツリーと浅草のみと聞いたので日本の古いものをと吉備津神社（弓道の試合に興味深い様子）と備中国分寺へ。帰宅後、ゆかたに着替えてもらいお茶席を設け和菓子と薄茶の体験。ゆかたを着ることは前日からとても楽しみにしていて、笑顔のゆかた姿をお互いに撮りあっていた。夕食は、準備していた小麦粉を使わないドライカレー、大変好評でレシピの要望があり、英語版作製もパソコン翻訳を活用して帰るまでにどうにか間に合う。
最後の夜はお別れ会、家族のことなど辞書や指さし英語の本を使いながらなんとなくわかりあえた気になる。『日本に来て倉敷が一番楽しい時間だった』と話してくれた。
・8月10日（月）
午前中、約ハーフポンドショップを紹介しショッピングを楽しむ、お土産の扇子、風鈴、タオルなどの買い物。昼食は一緒におにぎりを作って食べた。午後地区送別会
○感想
スカウトを迎える前からどんなコミュニケーションを取ったらいいのかと言葉の問題など気にしていましたが、日本についての興味のこと、イギリスの家族の話など、共に過ごす時間の中で多少なりとも伝え合うことができたような気がします。

2泊3日の短い期間でしたが、このような機会をいただいて楽しく交流ができ、思い出深い体験となりました。
○地区委員長としての感謝
・受入家庭の選定
受入希望家庭で全員をカバーできて助かりました。特にアレルギーなどの対応必要者や指導者を率先して受けていただいたことなど感謝。
・地区役員・地区各団の協力
歓迎・送別のセレモニーを順調に進めていただいたこと。各団では連絡調整はもとより受入家庭への最大限のご支援をいただいたことなど感謝。
・倉敷市の協力
歓迎・送別の段取りを早々と受諾いただき各種の準備をしていただいたこと、伊東市長には臨機応変な対応をいただいたことなど感謝。
・地区各団の底力
このような前代未聞のことが、さも当たり前のように取り組めること。やるときはやるよという底力に感激。何でも来いと胸を張りたい気分です。



23WSJの思い出　倉敷第14団　三宅 裕介

○受け入れスカウト名
UK　Charlie Bevan　15才　男の子
UK　Josh Holmes　15才　男の子

○受入の様子
2日目、9時30分から11時30分までカブスカウトの活動があったため、彼らと同行しました。イギリスのゲームを教えてもらったり、ロープを教えてもらったり、短い時間でしたが、楽しい時間でした。

○家庭での様子
8月8日（土）
14時半　歓迎会（市役所にて）
16時頃　帰宅
17〜18時　カブスカウトの娘が習っている英会話のレッスンに同行。
18時〜　夕食　焼肉（どんどん亭にて）
20時頃　帰宅　交替で入浴しながら、TVゲームをしたりジャンボリーで交換したピンバッチ等を見せてもらったり、歓談。
8月9日（日）
8時〜　朝食
9時半〜11時半　スカウト活動に参加
12時半〜　昼食　お好み焼き（自宅にて）
14時〜　カブスカウトの仲間も一緒に倉敷美観地区へ観光
17時半頃　帰宅
18時半〜　夕食　手巻き寿司（自宅にて）
20時頃〜　交替で入浴しながら翌日午前中の予定を相談
8月10日（月）
8時半〜　朝食
10時前　荷物を準備して自宅を出発
10時過ぎ　ボーリング（アミパラ）
12時前　昼食（びっくりドンキー（ハンバーグレストラン）にて）
13時半　制服に着替えて市役所へ移動
14時　送別会

○団、隊そして個人の家庭で受け入れての感想
初日は、お互い遠慮したり気を使ったりでぎこちない時間を過ごしましたが、徐々に打ち解けました。
食事に関しては、Joshがフレッシュトマトを食べられないと事前に情報を得ていたので、その他に食べられないものがないか初日に確認しましたが、他には好き嫌いもなく、刺身・てんぷらなども食べられるとのことでした。
女の子2人を迎えた別の家族のお母さんと最終日にお話しする機会があり聞いたのですが、「何が食べたい？」と聞くと「何でもいいよ！」と答えるものの、作った料理は少し食べて残される・・・。という状況で少しヘコんだ。と言われていました。我が家で迎えた男の子2人は、何でも準備したものをよく食べてくれたので、食事にはあまり気を使いませんでした。
日本語話せる？と尋ねると、「No〜…」と２人。私に、あなたはどこで英語を勉強したの？と聞くので、中学校や高校だよ。と答えると、イギリスでは学校で日本語を習わないんだ。と。真面目な顔をして教えてくれました。

初日の夕方、英会話教室に出かける際、英会話教室の後、一度家に戻って夕食に出るか？そのまま直行するか？と聞かれたので、おそらく時間がないから直接レストランへ行く。と伝えると、じゃあ着替えるからちょっと待って。と。それまでのTシャツから、襟付きのカッターシャツに着替えた２人。そんな高級なレストランではないんだけど・・・と思いましたが（笑）流石ジェントルマンの国、外食時は身だしなみに気をつける文化なのだろうなあ、と感じました。

１日目の夕食時、焼肉屋さんで彼らが今日の夕食はすばらしい！と喜んでくれたので、まずホッとしました（笑）。ジャンボリーは非常に暑い中での開催だったので、生鮮食品があまり無かったのか、お肉をサンチュに巻いて食べたり、産まれて初めてキムチにチャレンジしたりと、楽しんでくれたようでした。二人とも、お箸の練習をしていたようで、とても上手にお箸で食事をしていました。

夕食後帰宅し、「Do you take a bath?」と尋ねると、二人とも困惑した顔で「Why?」改めて「Do you go to shower?」と聞くと「Oh! Bath!」どうやら、私の発音が悪く「Do you take a bus?」と聞こえたようで、とても恥ずかしい思いをしました（笑）彼らは、「いつもは朝お風呂に入るんだけど、日本のスタイルが夜のお風呂なら、僕達もそうする。」と言っていました。

夜は、世界ジャンボリーでの話などを色々聞かせてもらいました。東京で観光したこと、鶴のおりがみをおったこと、自分の名前を漢字で当て字にし習字を書いたこと、色々な国の人たちと交流し、たくさんのピンズを交換したことなど、とてもいきいきと話してくれました。

朝食に、パンとご飯とどっちがいい？と聞くと、二人声を揃えて「bread！」　やはり基本はパン食なのですね。

二日目の午前中は、カブスカウトの活動へ一緒に参加し、イギリスでしているというゲームを教えてもらったり、ロープを教えてもらったりしました。カブスカウトの子供達も、熱心に活動に取り組んでいました。

昼食は、自宅でホットプレートを出し、広島風お好み焼きを作りました。彼らは、イギリスでの活動時キャンプの際、みんなでお好み焼きを作って食べたことがあるといっていました。家ではちょくちょく自宅でお好み焼きをするので、フライ返しでひっくり返すのはお手の物なのですが、彼らにも褒めてもらいました（笑）

午後は、カブスカウトの友達・お母さんも誘い、みんなで倉敷美観地区へ遊びに行きました。この時、観光地へ行くことは伝えていたのですが、おこずかいを持って行くように私が言わなかったため、Charlieは財布を置いて出かけていました。美観地区で大原美術館へみんなで入ろうという話になりました。お金を持ってこなかった彼は、入らないと言うので、彼にお金を持ってくるように言わなかったことを謝り、入場料はうちで支払うから是非入館しよう！と誘い、みんなで入ることができました。予めお財布を持っていくよう言わなかったのは私の反省点です。

夕食は、自宅で手巻き寿司にしました。彼らは生魚も食べられると言っていたのですが、念のためカルビも焼き、ごはんに巻いて食べられるように準備しました。結果刺身も良く食べていました。マグロが人気でした。

夕食後、花火でもしようかと思っていましたが、昼間の美観地区観光は炎天下でみんな疲れていたので（私が一番疲れていたかも）花火はしませんでした。
翌日午前中の予定が無かったので、みんなで相談しました。半日なので近場で遊べることといっても、プール・カラオケ・一緒にスーパーへ行く・ボーリング・ゲームセンター位しか思いつかず、彼らがこの中

で選ぶのならボーリングかな？ということで、ボーリングへ行きました。ボーリングはイギリスでも時々すると言っていました。Charlieはそれなりのスコアを出していましたが、Joshは球のスピードは速いものの、スコアはイマイチ・・・。でした。

ボーリングシューズを借りる際、彼らは自分の足の大きさをcmでは把握しておらず、ひとまず主人の靴を試してみて、彼らの靴を借りることにしました。主人は足のサイズが28cmで日本人では大きいほうなのですが、Joshが試し履きすると「too small・・・」彼の足のサイズは29cmでした。主人より足の大きい人にはあまり会わないので、びっくりです（笑）

昼食は、家で天ざるそばとか天ざるうどんなどを作ろうかと思っていましたが、午前中ボーリングに出かける事になったので、ボーリング場となりの「びっくりドンキー」へ行きました。ボーリング場・びっくりドンキー・市役所がほぼ隣同士に建っているので、そのまま徒歩で移動し、ハンバーグステーキを食べました。

Charlieはライスを一緒に注文しましたが、Joshはフライドポテトとハンバーグステーキ。ポテトがライスの代わりですね。朝食にしてもそうでしたが、やはり日本人ほどご飯に執着がないんだなあ、と思いました。

私は初めてびっくりドンキーへ行ったのですが、ハンバーグレストランなのにお箸しか出てこなかったんです。彼らにナイフとフォークが必要か尋ねると、大丈夫上手にお箸が使えるよ！との答え。彼らには、出来る限り日本の日常生活を体験しようという姿勢が随所に感じられました。

昼食のあと、ボーリング場で更衣室をお借りし、スカウトの制服に着替えた彼らと一緒にセレモニーが行われる市役所へ徒歩で向かいました。

全体的な感想ですが、やはり自分がもう少し英語が話せれば、もっとたくさんコニュニケーションがとれて楽しかっただろうな。と思います。4歳の息子は、全く日本語が話せない彼らにも、ひるむ事無く意味の分からないことを、どんどん日本語で話しかけていました（笑）。彼らは理解できず、よく困った顔をしていましたが、意味のある言葉は訳して伝えるとちゃんと答えてくれました。今回出会えた２人はとても良い子達だと感じました。２人に将来の夢（就きたい職業）を尋ねると、Charlieは車のエンジニア、Joshは弁護士と教えてくれました。

ひとつ、11歳の娘が三日間日本語もあまり話さず無口になっていました。（笑）彼女は英会話教室に通っているので、もっと色々話しかけてコミュニケーションをとって欲しいと思っていたのですが、15歳の男の子２人だったので、恥ずかしかったのか・・・。その点に関しては残念でした。これが、女の子２人ゲストを迎えていれば、少しは状況が違ったのかもしれません。

今回ホストファミリーになって改めて感じたことです。元々現在の日本にはたくさんの英語があふれている事は分かっていますが、英語が溢れているというより、アメリカが溢れているのかな?思いました。家で子供がポテトチップスを食べている時、彼らが「アメリカ人はチップスと言うけど、僕らはクリスプスって言うよ。」と教えてくれました。また、テレビからは、日本語ばかり流れてくるので英語の番組をつけようと探すと、ケーブルテレビには「CNN」はあるのに「BBC」はありませんでした。アメリカナイズされている。という言葉がありますが、気づかぬうちに自分もそうだったようです。

UKのボーイスカウトが、YOU TUBEにアップしていた世界ジャンボリーのセレモニー映像を後日見ました。彼らが、参加している他の国のスカウト達にインタビューしている映像がありました。彼らはまず英語で話しかけて、どこの国から来たの？と聞きます。国は違えど英語は通じます。細かい言い回しや方言的なものはあるのかもしれません。でも、まず言葉でコミュニケーションがとれる。ですが、日本語は日本以外の国の人にはまず通じません。日本語でコミュニケーションをとることができない。そう考えると海外へ目を向けた時、複数の国で話されている言葉を使う人たちと私達とは、もう既に立っている位置が全く違うのだということを改めて思い知りました。

少しずつ、英語教育に力を入れ始めた日本ですが、うちの娘も含め一人でも多く生きた英語を話せる人材が育ち、また英語が浸透するのと同じく日本語のすばらしさにも理解が深まればと思います。

最後にこのような貴重な体験をする機会を与えてくださった、ボーイスカウト関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

玉島第5団　石村 富久美

○受け入れたスカウト　【イギリス】　Zack and Jake
　　リーダー Eric and Sean

今回は、わが子が世界ジャンボリーに参加させていただきました。同じジャンボリーに参加したイギリスのスカウトが一足先に我が家に帰ってくるという、面白い企画でした。子どもが山口に滞在中、待っている家族も「イギリススカウトを迎える」ということで、とてもわくわくした夏休みになりました。

子どもたちは、普段の団の活動で教えていただいている様々なことは、世界につながる活動なのだということを体験から知ることができ、今後の活動への意欲がわいたようでした。ジャンボリーから帰ってきたわが子も、つたない英語でジャンボリーの思い出をイギリスのスカウトと話すことができ、喜んでいました。ボーイスカウトという共通点があることで、話も弾みました。

ただ、我が家にはリーダーとスカウトが一緒に滞在したので、スカウトにとっては少し窮屈だったかな？と思いました。イギリスのスカウトは、リーダーには決して口答えしたり意見したりしないのです！大変礼儀正しい人たちでした。

我が家も大変有意義な経験になりました。ありがとうございました。

浅口第1団　金光 清治

○受け入れたスカウト　【イギリス】
Jordan Russell、Kieran Adams
○団としての歓迎行事や交流会
　8月8日（土）　昼～夕方 全国少年少女大会に参加
　　夕方 団歓迎会に参加
　8月9日（日）　昼 全国少年少女会パレードに参加
　　素麺流し体験
○団、隊そして個人の家庭で受け入れての感想
・交流会の時に、団スカウトがGood eveningなどの簡単な英語で直接あいさつを交わして良かった。
・スカウトが本場の英語を聞いて、どの隊スカウトも感じとるものがあったようだ。
・２３WSJ参加スカウトは、イギリスのスカウトと英語でジャンボリーの感想なども話でき、笑顔がはずんでいて、体験者同士の交流はまた違ったものである印象を受けた。
・夕方の交流会の時に、イギリスのスカウトが、団スカウト全員の前で、最初に「おはようございます」と簡単な日本語であいさつをした。みんなに分かる日本語であいさつをしてくれようとしたのだと思うが、間違っていても笑いが起こることもなく、みんな聞き入っていたのが印象的だった。
・イギリスのスカウトが、交流会の最後に「次の世界ジャンボリーに、ぜひ参加して下さい」「また会いましょう」と英語であいさつした。その言葉を聞いたスカウトは、自分もいつかは参加してみたいと思ったに違いない。

英語圏の子ども達だったので、日常的なコミュニケーションも何とかなったので安心しました。二人とも大変よい子で、行儀も良く何も困ることもなく、子ども達も含め大変良い体験になりました。フェイスブックで友達になり、帰国後も写真を送るなどやり取りをしています。

玉野第1団　山田 達也

23WSJを終えた英国スカウトが、玉野に来ました。各ホストファミリーのもとで、玉野での1日目の夜を過ごしました。それぞれの家族で楽しいひと時を過ごしたよね。地元の夏祭りに行ったり、岡山城幻想庭園を見に行ったり、家で、ゲームをしたりと。日本の食文化にも、触れての1日目。

2日目。「弓道体験」「丸亀製麺」「おはよう！Good morning ！」車から降りてくるスカウト達。とても、いい笑顔。今日は弓道を通して、日本の武道を体験して欲しいと思いました。

的に当たると、みんな大喜び。胴着を着せてもらい、矢を放つ。かわるがわる何回も、弓を引かせてもらいました。次は、「風船割り」みんな凄いんだよ。的に当てられるんだもの。胴着も様になってるね。かっこいいよ。弓道体験が終わり、昼食に「丸亀製麺」へ。「UDON」大丈夫かな…と思ったけど、「OK」って言ってくれて一安心。みんなで並んで、うどん、天ぷらとおむすびと、好きなものを選んでもらい、テーブルについて、日本の食文化を楽しんでもらいました。「丸亀製麺」気にいってもらえて、よかったです。

次はビーバー隊とカブ隊が、「おもてなし」の用意をしてくれています。私たちの活動場所である、王子ヶ岳のキャンプ場・三国荘へどうぞ。最初は、お互いに自己紹介。次に「折り紙」「あやとり」「けん玉」「こままわし」など、日本の遊びをスカウトと一緒に楽しみました。一生懸命チャレンジしてくれました。今度はイギリスのスカウトから、「ダックダック・グース」という、日本のハンカチ落としに似たゲームを教えてもらい、たいへん盛り上がりました。みんな必死で、逃げたよね。楽しかったね。

ビーバー、カブも、最初は恥ずかしがっていたけど、すぐに友達になれたね。笑顔！笑顔！だもんね。楽しいひと時は、あっという間だね。それぞれのホームスティ先に帰っていきました。腕相撲、指相撲、UNO、Wii、花火、海水浴、たったの3日なのに、家族みたいに過ごして本当に楽しかったです。

玉野第1団　藤原 裕和

今回、初めてホームスティを受け入れる事になりました。ドキドキ、ワクワク感があって凄く楽しみにしていました。来る前までは、「あんな事もしてあげよう」など、色々考えたりしていましたが実際には、どこまでしてあげられたのか…って感じです。

お土産も沢山いただきました。近くの夏祭りに行ったり庭でBBQをしたりして楽しみました。中でも1番盛り上がったのはゲームでした。みんなで大爆笑をし、ハイタッチもしました。とても楽しかったです。二人共、とても優しくてよく気配りをしてくれるいい子でした。

たった2泊3日のホストファミリーでしたが別れの時は、とても辛かったです。でも、またいつか会いに来てくれると思ってます。私は、この2人のホストファミリーをさせてもらって大変よかったとおもいます。とてもいい体験をさせてもらいました。ありがとうございました。

玉野第1団　桑原 淳

お客さんが泊まることなどなかった我が家へ、イギリスからのお客様。おもてなしの準備も不十分なまま始まったホームステイでした。さすがに初めは双方が緊張気味でしたが、お祭りへの参加で地域の方とも交流できました。ひとりは、ホームシックで涙を見せたりしましたが、そこはまだ14歳、ゲーム等を通じて次第に打ち解けていきました。

特に印象に残っているのは2日目の夜。子供たちみんながリビングに集まり、大誠がギター（♪Let It Go）を弾き始めたとき、自然に英スカウト2人が合わせて歌いました。その後もエレクトーンを弾いたり、英スカウトが弾き語りしてくれたりして、みんなで音楽を楽しみました。とても心地の良い素敵な夜でした。

水遊びで大騒ぎしたり、同じアニメが好きだったりと、国が違っても共通なんだなあと微笑ましかったです。日本人同士だと普段意識しないことですが、目を見てしっかり聞くこと、相手を理解しようとすることで、言葉がわからないなりにも、コミュニケーションできた感じがします。また生きた英語に接することができたのは、とても良い経験でした。お別れの際、ゆっくり時間がとれなかったのは心残りでしたが彼らが笑顔でバスに乗るのを見てホッとし、帰路の無事を願いました。

玉野第1団　宮﨑　学

思ったより言葉が聞き取れなくて、意思の疎通に苦労した。滞在日数が短く、慌ただしく終わった。二人とも、私のおぼつかない英語にも一生懸命に理解をしようとしてくれて嬉しくなりました。また機会があったら、是非受け入れたいと思います。

とても楽しかったです。普段から英語に触れることが少ないのですが、今回のをきっかけに沢山の英語を話し良い体験ができました。会話はそれほど困らなかったので、留学したい気持ちが強くなりました。（傑）

玉野第1団　松本 泰明

今回のホームステイのホストファミリーの経験ができたことはとてもよかったです。最初は正直、よくわからないしめんどくさい、私自身忙しいしどうやって断ろうと悩んだぐらいでした。しかし子供がいろいろな人のお世話になってスカウト活動に参加させてもらっているのに、保護者がスカウト精神に反していたら子供に失礼だと考えて腹をくくりました。

最初は私一人での対応で本当にどうしてよいか分からず、イングランドの彼女たちにもその緊張感が伝わってお互いぎこちなかったと思います。次第に慣れ二日目の夜はとても楽しい時間をすごせました。手巻き寿司の酢飯や焼きそばを一緒に作ったり、花火をしたり一緒に何かをすることによって、とても距離感が縮まった感じがしました。

3日目、彼女らが仲間のスカウトに酢飯ややきそばを作っている写メを自慢げにみせている場面をみてうれしく思いました。あとからああすればよかった、こうすればよかったといろいろな思いがでてきましたが、彼女たちが立派なスカウトだったので、私たちホストファミリーも来てもらって良かった、楽しかった。良い経験ができたと思えたのだと思います。手引きにもありましたが、家族の簡単なアルバムをつくっておけばよかったなと少し後悔でした。今回貴重な経験ができたのは子供はもちろん夫婦にもありがたいことだと思いました。いろいろとサポートしてくださったリーダーの方たちにも大変感謝しております。

玉野第1団より

今回は、ホストファミリーを引き受けて下さり、ありがとうございました。写真に写っている顔がどれも笑顔の写真で素敵です。最初はどの家族にも不安はあったんでしょうが、御家族の「おもてなし」の気持ちが伝わって、彼らもすぐに打ち解ける事が出来たのでしょう。言葉が少々通じなくても大丈夫なんだね。お互いが思いやる気持ちがあれば、なんとかなるもんなんだよね。2泊3日、滞在時間は少なかったけどスカウトとの家族としての絆が深まって、新しい家族が増えたんじゃないの。日本にも故郷ができたんじゃないのかなあ…。みんながお別れの時スカウトとハグをしているのを見て、見ている方も胸が熱くなりました。これからもスカウト同志ずっと、交流が続く事を願います。本当にありがとうございました。お互いに、いい経験が出来たね。

「みんなで 23WSJ を成功させよう」協賛金

◎法人（依頼 1,200,000 円｜合計 1,215,000 円）

1	坂本産業株式会社	200,000 円
2	平井ビル株式会社	100,000 円
3	株式会社中国銀行	100,000 円
4	桜田工業株式会社	100,000 円
5	両備ホールディングス株式会社	100,000 円
6	ＯＨＫ岡山放送	100,000 円
7	株式会社山陽新聞社	100,000 円
8	ナカシマホールディングス株式会社	50,000 円
9	備中開発株式会社	10,000 円
10	クラブン株式会社	10,000 円
11	丸五ゴム工業株式会社	10,000 円
12	株式会社いのうえ	30,000 円
13	株式会社吉備ケーブルテレビ	10,000 円
14	山下産業株式会社	10,000 円
15	株式会社岡山スポーツ会館	10,000 円
16	株式会社徳山電機製作所	10,000 円
17	株式会社三幸工務店	10,000 円
18	備北タクシー株式会社	10,000 円
19	株式会社さえら	10,000 円
20	株式会社ビザビ	10,000 円
21	ネッツトヨタ岡山株式会社	10,000 円
22	岡山土地倉庫株式会社	10,000 円
23	玉野商工会議所	30,000 円
24	株式会社倉敷ケーブルテレビ	10,000 円
25	テレビせとうち株式会社	30,000 円
26	新見商工会議所	30,000 円
27	土井建設株式会社	5,000 円
28	ボーイスカウト岡山連盟	100,000 円

◎個人（依頼 20 口 1,000,000 円｜合計 1,000,000 円）

1	馬場秀雄	100,000 円
2	岡本耕治	50,000 円
3	今田惇治	50,000 円
4	笛木久雄	50,000 円
5	坪井喜久太	50,000 円
6	神原彰仁	50,000 円
7	山田貞秀	50,000 円
8	光畑俊行	50,000 円
9	脇本富治	50,000 円
10	金光吉浩	50,000 円
11	茅原隆之	50,000 円
12	幡山寛念	50,000 円
13	玉野市ボーイスカウト育成会	50,000 円
14	ボーイスカウト新見第１団	50,000 円
15	ボーイスカウト都窪第２団	50,000 円
16	ボーイスカウト倉敷第１６団	50,000 円
17	ボーイスカウト総社第３団	50,000 円
18	ボーイスカウト岡山連盟	100,000 円

岡山連盟オリジナルピンバッジ・ポロシャツ

日本連盟派遣団キャップ・ネッカチーフ

ボーイスカウト岡山連盟
第23回世界スカウトジャンボリー　派遣隊とホームステイの記録

2016年6月19日　発行
発行人：ボーイスカウト岡山連盟
発行所：有限会社坪井技研

ISBN978-4-9908867-1-4
Printed in Japan

ISBN978-4-9908867-1-4
C0002 Y1000E

日本ボーイスカウト岡山連盟